国民と森林

1985年・秋季 第 14 号



国民森林会議



のですが、国立公園の仕事を民間でバックア されました。 ップしようということで二九年に協会が設立 公園法ができ、三四年から実際に指定される 大井 日本では一九三一 (昭6) 年に国立 国立公園協会といいますと……。

を啓蒙することです。そのほか、国立公園の はどんなものか、どんな利用のし方があるか 説して利用者の知識を深めるビジターセンタ 清掃のお手伝いや、公園内の風景や自然を解 の展示などもしています。 主な仕事は、国民のみなさんに国立公園と

自然の利用の一つですが

です。そこで自然公園でレジャーを楽しもう 大都市の中に緑をつくることは、 活環境が悪化してきた。そのリアクションと して緑倍増とか、三倍増とかいわれているが、 増えているようですが。 大井 国民の多くが住んでいる大都市の生 最近、国立公園など自然公園の利用者が 実際は困難

ということになってきます。

林政審議会が八月に「森林の危機の克服に

がまんの時代に森林こそ

大井道夫国立公園協会理事長に聞く

おおい

みちお氏

一九二二年新潟県牛

科学的な利用もこれから求められるでしょう ね。そうしたニーズに対応して協会がバック 自然の仕組みがどうなっているのか観察する 密着した楽しみ方も求められるようになりま はそういうことだけでなく、自然とふれ合う きました。昔は景色を眺め楽しんだが、いま アップすることを考えねばなりません。 した。きれい・美しいという感覚的利用から、 自然と人間のつき合いも時代と共に変って 国民森林会議が行った教育森林の提言も

です。 林」と報道していましたが、あれはカラマツ 効薬でない。正確に科学的に見ることが必要 ている。自然についても同じです。 な知識がどうも欠けているようです。例えば えには大賛成です。自然や森林に対して正確 が受け止める方は情緒的です。緑は万能の特 の造林地です。森林を正しく見る目が失われ 先日日航機が墜落した上野村の森林を「原生 緑の必要性が叫ばれることはいいことです 森林自体が教育の場であるという考

> 退官、財団法人国民休暇村協会常務理事 まれ。一九四六年東京帝国大学農学部林学 国民森林会議会員 同省国立公園局計画課長、 八四年から財団法人国立公園協会理事長 同庁公害研修所長を歴任、七八年 四八年同大学院退院厚生省に入る。 環境庁長官官房

林・林業・林産業の危機の克服は簡単ではな 熱帯降雨林の消滅に手を貸しているのは日本 という声がある一方で「国産材時代」という。 い。森林・林業にたいする国民の要求は多様 変きれいにうまくまとめられていますが、森 向けて」という中間答申をまとめました。 相反する方向の要求もある。「伐るな」

耐えるための手だてを

いき方を科学的に検討し、 の時代』でないだろうか。 当分の間、 森林、 林業、 林産業は、ガマン きめの細かな技術 この時代に今後の

ですから「技術援助」も大切ですが、 なところでの対策も必要でしょう。

季刊

ウッディ上野村展

緑陰学級は花ざかり 第9回世界林業会議を終えて 名村二郎…… 7

緑のすばらしさ体験………10

緑陰学級に参加して

日本列島ユースアクショーの試み……14 山村を歩いて…安達生恒…………18 老いて山に生きる●鈴木志津さん●……20

ある小山林所有者のうめき

「朝日学術奨励金」研究を聞く……23 21世紀へのキーワードは"入会"

切抜き森林・林政ジャーナル……26 森林の危機の克服に向けて ……28

会員の出した本・筒井迪夫/八木健三……34

会の動き/編集後記……35

東山魁夷 1971年製作 表紙 湖青む頃 $54\,\mathrm{cm} \times 73\,\mathrm{cm}$ 南ドイツの山湖

> 目次題字 隅谷三喜男 森前しげお カット

そのための いわれていますが、 できない、手入れがやれない、ということが 将来は価値はでてくる。そう思います。 果が発揮できるのではないか。耐えていれば **美林を残すことができます。** 制の時代。そこで森林は国産の資源として効 ても、絶えず手直しすることです。二一世紀 「長伐期」「天然林施業」といっていますが、 林政の細いことはわかりませんが、間伐が 先生は エネルギーの節約を強いられる抑 「抑制の時代とそ森林」といって (財政などの) 手だてが必要です。 いま財政的に援助すれば、 答申も「複層林」

ます。 かし、 ない生活で、 その通りです。そうするとガマンということ することを学ぶことが大切」といいましたが、 を制御すること、自分の欲望をコントロール になりますが、ガマンは苦しいことです。 森林のレジャーでは電気もクーラーも ガマンを楽しく学ぶことができ

夜にも楽しみがあります。 は自然とつき合うことにはならない。 自然には雨もあれば夜もある。それをさけて マの自然と人間がぶつかることが大切です。 自然公園もすぐ施設を作るのではなく、 自然はジェントル 雨にも ナ

ンはいいことです。

おいでですが

応できる訓練も森の中ではできます。そのた

なものではなく、危険です。

それに子供が対

することを学んだが、これからは人間が人間 『二〇世紀の意味』で『人間は自然を制御 大井 アメリカのケネス・ボールディング

のですから見通しも困難です。見通しを樹て

き難い時代です。まして、森林は長期間のも

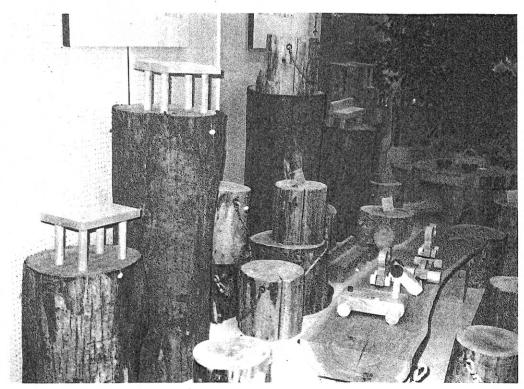
が

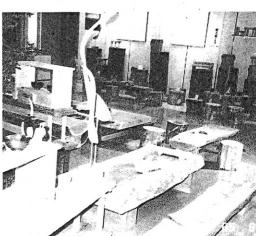
実性の時代、「こうなる」という予測がつ

を確立しなければなりません。二一世紀は不

めのリーダーの養成や、 ことをいやがる風潮です。 部も一~二人という大学もある。 を育てることも必要ですが 危険にはあるていど本人の責任でという気概 登山も若い人が少ないですね。 自然とのつき合いの

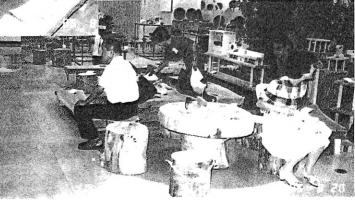
行き田舎をバカにする。 は東京や大阪にしかない。 どうも日本人は いないのではないでいでしょうか。それに、 るためにも森林の中の楽しいレクリエーショ 大井 山林労働がつらいから山林労働者も がまんの問題かも知れませんね。 「新しがり屋」で新しいこと そうしたことを変え そこで都市に出て "つらい 大学の登山





毎(手前)の優雅な デザインも調和して

温みのある木の肌に





材して、木に寄せる都会人の熱い思 が上野村に墜落した三日後にオープ 東東京のド真中、新装の有楽町阪急 いをみた気がしました。 で木工芸の展示会 ― 。あの日航機 ンした『ウツディー上野村展』を取

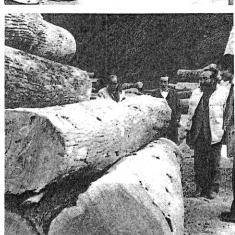
野村展』はここの八階コミュニティギャラリ 目見得した新らしいファッションの街。 ーで開かれました。 Ē

> して上野村の木工芸を指導している方。 んは京都在住ですが、自ら「木工芸工人」と

製品の全部は田中重希さんの作品。田中さ

企画した阪急の談。 木材の製品が並んでいます。 もちゃやお盆、菓子器、茶托など上野村産の や、白木の座卓(十六万円)インテリア、お の皮をはいでロープをつけた腰かけ(八千円) ージにぴったり」と初めての木工展の開催を 会場には、素材そのままのものから、根株

原木(シオジ) =上,お盆の原料に切ら れた材=下(いずれも上野村で)



有楽町阪急は、銀座の入り口に昨年十月お

ます。物をつくるのに木を選びデザイン的に もすぐれていて△本物志向>という店のイメ 「店としても自然、手づくりに興味があり

その伝統に新しい息を吹き込みよみがえらそ うという熱気を感じた『上野村展』でした。 それを生かす技術をこよなく愛した日本人―。 と二極化するのでしょうね」。 れからは手のかけたものと、そうでないもの ンクリートマンションに置くようですね。こ 白木の根株のイスを買う人も多いとか。「コ 人は見たこともないのですから」と田中さん。 ん。まず見せることから始めないと、都会の 数百年もの歳月がかけた木の素材の美さと 「都会の人に"木』といってもわかりませ

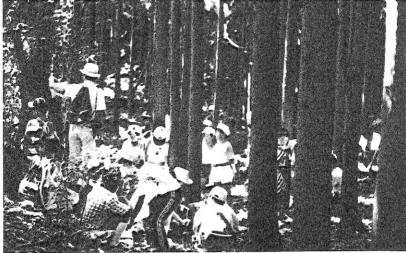
写真でのぞいてみました。(本文10ページ参照)

森林の働きを知った子供たちの喜び ― 。函館・大阪・岡山での表情を われました。名づけて〝緑陰学級〞。ほんのちょっぴりですが緑に接し、 この夏もあちこちで「子供たちと森林に親しもう」という催がおこな

緑陰学級は花ざかり



函館での学習





岡山での林間の教育

第9回

世界林業会議を終えて



第三回……一九四九、 フィンランド・ヘルシ

第四回 第五回 第七回……一九七二、 第六回……一九六六、 …一九六〇、 九五四、 アルゼンチン・ブェノ スペイン・マドリード アメリカ・シアトル インド・デラダン

第八回……一九七八、インドネシア・ジャカ スアイレス

の主催あるいは共催で開かれている。第五回以

以上のうち、戦後の一九四九年以降はFAO

時代を映したテー 7

降の統一テーマの変遷を掲げると次のようにな

名

村

郎

森林・林業に対し時代が求めるもの

が何であったかを物語っている。

第五回:森林の多目的利用

っており、

の間にメキシコのメキシコ・シティーで開かれ 第九回世界林業会議は、 七月一日から一〇日

な経緯を辿ってきた。 ローマで第一回が開催され、その後は次のよう 世界林業会議の歴史は、 古くは一九二六年に

第二回……一九三六、ハンガリー・ブタペス

第九回 第八回:人間のための森林 (今回) :社会の総合的発展のための

第七回:森林と社会・経済発展

第六回:世界経済での林業の役割り

今回の世界林業会議の参加者は、 林業資源 世界の一〇

した。 五カ国から、登録した者だけでも一〇〇〇人を 中林野庁長官のほか官民併せて八名が登録参加 もあり、 超えており、本年が「国際森林年」であること 極めて盛況であった。日本からは、田

動向と新たな対応」に関する報告。 の三つの「技術分科会」に分れ、各国からの報 告・討論が行われた。すなわち、 会議」と三日の「基本会議」を除き、会議は次 開会式と閉会式が行われた前後二日の「全体 第一技術分科会は「森林資源の管理における

7

る動向と新たな対応」に関する報告。 第二技術分科会は「林業生産と生産性におけ

であった。 関する動向と新たな対応」に関する報告。 第三技術分科会は「地域社会の発展と制度に

こととする。 技術分科会でのグループ・テーマを次に掲げる のすべてを紹介するわけにはいかないので、 かを端的に知ることが出来よう。ここではそ 体の森林・林業が現状において何が問題である 一○○件余にのぼり、これらを見れば、世界全 これら技術分科会で行われた発表報告は合計

造林技術および森林資源と野生生物の施業、

保全、保護

- 砂漠化防止のための林業活動
- 3 人工造林
- 4 開発が森林資源に与えるインパクト
- 森林の遺伝子保存
- 森林資源の調査と保存管理
- 林産業の有用技術、総合化および生産レベ 木材供給とインフラストラクチャー

以下、オーストリア、フランス、イギリス、ブ

も多く、次いでアメリカが二一、カナダが一九、

地元のメキシコが三四のレポートで最

された件数は、前記のように二〇三件であり、

これら二○のグループ・テーマのもとで報告

- 木質エネルギーとバイオマス
- 林産物市場と需要の開発
- 生産機構
- 以上第二分科会。 林学、技術と研究 林業分野発展のための資金制度
- 林業政策と法規

林業行政 林業教育

- 地域開発に対する診断と指導 林業生産への参加のモデル 地域社会の林業活動への参加
- 上国の森林・林業の保全・発展のために、先進 論だけでは問題の解決にはならず、とくに、途 の満ち足りた先進国の情緒的な森林愛護の精神 解るように、圧倒的多数を占める開発途上国を 含めた世界の森林・林業においては、単に一部 上述の①から⑳までのグループ・テーマでも 以上第三分科会。

名村さんによる日本か

森林資源のもつ環境等への保護機能

以上第一技術分科会。

いえよう。 その国の真剣な取組みを表現することになると 少しでも多く意見を提起しようとすることは、 で自分の国や世界の森林・林業の問題を考え、 このような国際会議を通じて、 国際的連帯の中 うわけではないが、先進国、途上国の多くが、 だけだったのは、いささか淋しい感があった。 い国であった。先進林業国の日本が一件の報告 国、ペルー、チリー、等の順で報告の件数の多 ラジル、セネガル、オランダ、スェーデン、中 必ずしも報告件数が多ければそれで良いとい

として発表された。 見の集約が大会最終日に "General Conclusions レポートに対する討論が行なわれ、これらの意 of Mexico"が承認された。 また本大会の総括宣言として、"The Manifesto ところで、前述の三つの技術分科会では、

林業の在り方を示すものであるので、次に掲げ で採り上げられた勧告は、今後の世界の森林・ これら各技術分科会の"General Conclusion 切実な問題としてとり上げている。 な具体性のある働きかけが必要であることを、 国の協力を含めた資金的、物的、技術 <u></u>

日本の報告は一件

的

ておく。

- 流域管理モデル、の各分野において) ロフォレストリー、森林病害虫防除、育種、ロフォレストリー、森林病害虫防除、育種、 の名分野において) 地域社会開発のための有効な手段となる研
- し、林業手段を妨げる資金不足が明瞭である地域社会の改善力となる有利な経営を阻害山火警防、森林病害虫防除について)技術者および作業員のトレーニングの重要
- ひと。 切な森林施業技術の採用の重要性を認識するの 政治的および意志決定の機関において、適

① 林業各分野における訓練と研究の重要性の※第1 技術分科会の"General Recommendations"

産と共同しなければならない。

適合したものであるべきで、経済的、社会的②(林業生産のテクノロジーは、地方の条件に強調および研究成果の公表。)

も注目すべきである。なく、収入源として無視できない非木製品になく、収入源として無視できない非木製品だけで

に果たす役割りについて特に注目すべきである。

① 林業政策は、林業行政の指針を示すのみで

の機関の指針を示すものでなければならない。

の機関の指針を示すものでなければならない。

の機関の指針を示すものでなければならない。

③ 林業政策は、林業への人々の参加、トレーのである。

社会福祉の増進、

環境の改善の面におけるも

この役割は地域社会の日常のニーズの充足、

ある。 ニング、知識の普及などの手段となるべきで

⑥ 林業活動について

法的手段による支援、。林業技術指導の改善、。共同体や公共機関の支援、。国の政治的、

補助金、融資・知識の普及移転、の簡明、迅速かつ適機な

等を通じて、農村共同体の意志決定力を働か

の機関を併せて、恒久的な相談あるいは調整® 共同体や林業公共機関の中において、官民的資源の割当てや機会を与えること。

孤立より連帯への道を

機能をもつ機構を創設すること。

以上が、第九回世界林業会議の概要であった。以上が、第九回世界林業会議の概要であった。このことは言葉の問題も一因ではたいささか専門的過ぎた紹介となったが、世界林業会議は、本来、世界中のプロフェショナルが、大変になっており、極めて友好的かつ実務的な性格をもっている。しかしながら、今回は、既性格をもっている。しかしながら、今回は、既性格をもっている。しかしながら、今回は、既性格をもっている。しかしながら、今回は、既性格をもっている。しかしながら、今回は、既性格をもっている。しかしながら、世界林業会議の概要であった。

(海外林業コンサルタンツ協会専務理事)



緑のすばらしさ体験

―緑陰学級に参加した人たちの手記-

か、北海道(函館)、大阪(箕面)、岡山(高梁)の三地区の参加者の手記を紹介しよう。 教室、、緑陰学級、がこの夏も全国各地で開かれていました。参加した人たちは、どう思った 緑とすっかり縁遠くなった人たちに、森林のすばらしさを知ってもらおう ―― という,緑の



▽北海道△



武 田 栄 子

「緑の学校」。なんてすてきな名前なんでしくて、ちょっぴり勉強になりました。もう七十歳になろうとしている年寄りが、小もう七十歳になろうとしている年寄りが、小学生と一緒に、いろいろと木のこと、林のことを教えて頂きました。 たの短い年寄りに、こんな貴重な機会を与えたの短い年寄りに、こんな貴重な機会を与えたの短い年寄りに、こんな貴重な機会を与えたの短い年寄りに、今日のこのお勉強を、次のおきたこの次の子供に、孫に伝へて、一本の木も大きくなるように、今日のこのお勉強を、次の大きくなるように、今日のこのお勉強を、次の大きくなるように、今日のこのお勉強を、次の大きくなるように、今日のと思いました。

です。
です。
の年寄りは後何回連れて行って頂きたいものとう。倒れない限り、お供させて頂きたいもの(一回)千円位でやって頂けたら嬉しいですね。(一回)千円位でやって頂けたら嬉しいですね。の無無料とはとんでもない話。一日致します。勿論無料とはとんでもない話。一日とんなすばらしい学校が一年に一度では、と

次の機会が早く来ます様、お待ちしておりまました。残念でした。等、まだまだ教えて頂きたいことが、沢山あり頂いた種子の植え方、その時期、その管理等

主婦 加 藤 良 子す。ありがとうございました。

る役所ということは日常あまり気にしておりまる役所ということは日常あまり気にしております。その森林を管理していい木をつくること、良い木により私達は沢山のは山で育てられると聞きました。林野庁は、良られて、五年生まで苗畑で成長し、六年目からられて、五年生まで苗畑で成長し、六年目からられて、五年生まで苗畑で成長し、六年目からられて、五年生まで苗畑で成長し、六年目からられて、五年生まで苗畑で成長し、六年目からと進んだ。ほとんどが親内月十一日は晴天に恵まれた。ほとんどが親

せんでした

私達は住みよい環境にいられるわけです。 私達は住みよい環境にいられるわけです。 私達は住みよい環境にいられるわけです。 私達は住みよい環境にいられるわけです。 をかかり、その間植つけから下刈り、つる切り、 をかかり、その間植つけから下刈り、つる切り、 をかかり、その間植つけから下刈り、つる切り、 をが大を得るまで、五、六十年 をかかり、その間植つけから下刈り、つる切り、 をかかり、その間植つけから下刈り、つる切り、 たえまなく、作業がつづけられるわけです。 私達の生活には、木は必要不可欠なものです。 をの木が育つまでにもいろんな恩恵をうけているから、 私達は住みよい環境にいられるわけです。

さて今回の学びで、一番感動したことは、砂さて今回の学びで、一番感動したことは、砂をまき上げ、人家をおそい、人が住めない所と化まき上げ、人家をおそい、人が住めない所とと、それによる砂けむりを、防御する役目をはたしておりました。しかし鰊場として盛えた時と、それによる砂けむりを、防御する役目をはたしておりました。しかし鰊場として盛えた時に及んだそうです。その後折柄の強風は、砂をまき上げ、人家をおそい、人が住めない所と化まき上げ、人家をおそい、人が住めない所と化まき上げ、人家をおそい、人が住めない所と化まき上げ、人家をおそい、人が住めない所と化まき上げ、人家をおそい、人が住めない所と化まき上げ、人家をおそい、人が住めない所といいです。

戸の家が建ち、部落が出来て活気があります。ました。そのお陰で、五十年を経た今は、二百然の流れを人の知恵は上手に変えることが出来防風の計画がなされ、三十年間の年月により自昭和十年頃より、海岸に森林をつくり、防砂、

山知りました。常生活から切りはなすことの出来ない分野を沢めておりませんでしたが、今回の学習により日めておりませんでしたが、今回の学習により日

でありました。
私達に学習させて下さり、本当に有意義な一日庁の仕事を労組の皆さまが、かけ橋となって、国民の財産(自然とその恩恵)を預かる林野

紙一枚にも、割り箸一ぜんにも、水一滴にも。に考えさせられております。とれをどう環元してゆくか、今、この機会す。とれをどう環元してゆくか、今、この機会がは日常生活から、森林の恩恵をうけていま

夢子

本当に有難うございました。

営してくださいました営林署の皆様に感謝いたあつい一日にもかかわらず「緑の学校」を運しかゆしでしたが……。私自身は、翌日から「湿疹」に悩まされ、痛ル袋はいっぱいでした。

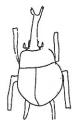
桔梗小三年 森 大介

します。ありがとうございました。

次はバスで桧山にむかいました。さいしょは、「砂坂海岸林」を見学。これは海からふいてくる砂をさけるために作った人工林です。てんぼうだいに上ると風が強く木がみんなかたむいてうだいに上ると風が強く木がみんなかたむいてっだいに上ると風が強く木がみんなかたむいてっだいに上ると風が強く木がみんなかたむいていました。森林の中を一時間ぐらい歩きながらいました。森林の中を一時間ぐらい歩きながらいました。本林の中を一時間ぐらい歩きながらいました。春林の中を一時間ぐらい歩きながらないでしょう。

んあつい日でした。すがたくさんわかりました。この日は、たいへすがたくさんわかりました。この日は、たいへ縁の学校にさんかして木の名前や自然のよう

▽大 阪△



諏訪山小五年金 砺秀 晃星

りなのでつかれました。 りなのでつかれました。歩いていると、坂道ばかと中の店にもみじ天ぷらを売っているところがと中の店にもみじ天ぷらを売っているところがにいくとバスていの前だったので、バスでいくぼくは、お父さんと電車でいきました。みのおぼくは、みのおにいくのは、はじめてです。

ルを見るのははじめてで、かわいく感じました。にくは、ビーチサンダルをはいていなかったのだは、にげられてしまいました。石の下などもれど、にげられてしまいません。どこにいったのです。ぼくは、ニ回チャンスがあったけれど、です。ぼくは、ニ回チャンスがあったけれど、です。ぼくは、ニ回チャンスがあったけれど、です。ぼくは、ニ回チャンスがあったけれど、です。ぼくは、ニ回チャンスがあったけれど、だっちもだめでした。一回は、魚をつかんだけだった。これでも、楽しいです。ぼくは、ビーチサンダルをはいていなかったのぼくは、ビーチサンダルをはいていなかったのにくは、ビーチサンダルをはいていなかったのにといった。

S南小六年 井上 高輔

かった。こんな大ぜいの人が集まるとは、思わ集まった時、どんなことをするのかわからな

切にふやしていかないといけないと思う。じめてのけいけんばかりだった。特におもしろのかったのは、にじますのつかみどりだった。せかったのは、にじますのつかみどりだった。せれに木の大切さもわかった。本はまだまだ緑が少ないので、もっともっと大本はまだまだ緑が少ないので、もっともっと大本はまだまだ緑が少ないといけないと思う。

吉田佳史

最初は、つきそいの先生のすが先生に、木の 生えている場所、草、木の名前を聞いたりしま たけど、今まで気をつけて見ていなかったせい たのでした。くさりかけの木にキノコがついていまし た。ビョウタケ、さるのこしかけ、などがあっ たけど、今まで気をつけて見ていなかったせい か、初めて見たようなものばかりでした。また、 山の高さによって生える木の種類がちがうなん でことは初めて知りました。知らないというよ りは、知っていたんだけどそういうのは、高山 がけなんだと思いこんでいたのです。 また、山菜の中で一番おいしいといわれるタ また、山菜の中で一番おいしいといわれるタ

また、来年もいきたいな!とで二ひきしかつかまえられませんでした。見ると黒いのと、つかんでもつるっとすべるのにじますのつかみどりは、にじますが上から

桜井谷小四年山 口大一輔

朝行くとき電車の中でみのおぐらいかんたん

といいながら行きました。

とってもおいしかったです。した。いっぱいとってやいてもらってたべたらしました。なかなかとれないのでアミでとりまもくてき地の川について、マスのつかみどりをした。たいへんつかれてしょうがなかったです。

家に帰ってから、ばくちくの音のする木をもやもらって帰りました。のでたのしかったです。さいごにカブトムシを森の中でいろいろなことをおしえてもらった

だな。らい年もまた行きたいです。くればよかった。木にもいろんなものがあるんしたらバチバチとなりました。もっともらって家に帰ってから、ばくちくの音のする木をもや

山口直並

魔の自動車道。

足も出ず。四年の息子の方は、これぞとばかりマスが放流された川についた時にはもう手も

本でマスを追いかけ回しつかんだ数は? 少必死でマスを追いかけ回しつかんだ数は? 少必死でマスを追いかけ回しつかんだ数は? 少必死でマスを追いかけ回しつかんだ数は? 少必死でマスを追いかけ回しつかんだ数は? 少必死でマスを追いかけ回しつかんだ数は? 少必死でマスを追いかけ回しつかんだ数は? 少必死でマスを追いかけ回しつかんだ数は? 少必死でマスを追いかけ回しつかんだ数は? 少当があい、参加させていただけたらと念じておりい誘い、参加させていただけたらと念じておりな死でマスを追いかけ回しつかんだ数は? 少必死でマスを追いかけ回しつかんだ数は? 少必死でマスを追いかけ回しつかんだ数は? 少

申し上げます。

>岡 山口



Ţ

第二福田小六年

中

干枝子

七月二十八日、お母さんと緑陰学級に参加して月二十八日、お母さんと緑陰学級に参加した。森林がなかったらどんなことに困るが、と中でアイスを食べたり、緑の自然を見なが、と中でアイスを食べたり、緑の自然を見なが、と中でアイスを食べたり、緑の自然を見なが、と中でアイスを食べたり、緑の自然を見なが、と中でアイスを食べたり、緑の自然を見なが、と中で大力をした。長い道のりでしたは、と覚えられるだろうと思いました。

もらいました。 みやげに、竹の貯金箱とかぶと虫、松の苗木をみやげに、竹の貯金箱とかぶと虫、松の苗木を

みなさん、ありがとうございました。営林署のれはしないかと、ひやひやしました。営林署のアップで映ったところもありました。友達にばデオを用意して待っていると、始まりました。八月五日にテレビで放映されるというのでビ

本郷小四年 大人桐 理一佳

とんぼや、せみやくわがたなどもいました。いしいような気がしました。へ進むにつれて、なんとなく空気があまくておでも、森林に入り、説明を聞いてから、奥の方て、どんなことをするのかわかりませんでした。お母さんから緑陰学級に参加しようといわれ

途中休けいを何回かして、その中でおじさんたちに学校林の話しや木の役割などやめずらしい木の名前や草や花の説明も聞きました。今までに聞いたことのない「そよご」「ねじき」「たちしおで」「ふでぬぐい」などいろいろな木の名前を知ることができました。名前ににたような木もあれば、にていない木もあり、にたような木もあれば、にていない木もあり、にたような木もあれば、にていない木もあり、にたような木もあれば、にていない木もあり、にたような木もあれば、にていない木もあり、にたような木もあれば、にていない木もあり、とうして名前がついたのかなあ?……。

をされておられるのですね。
おじさんたちの仕事は、ほんとうに大変な仕事もかかって大きな木になることを知りました。もかかって大きな木になることを知りました。もかかって大きな木になることを知りました、別近さんたちの仕事は、ほんとうに大変な仕事はであるタンスや、机やえんぴつなどたくさり近にあるタンスや、机やえんぴつなどたくさり近にあるタンスや、机やえんぴつなどたくさいでは、

これからもお仕事をがんばって下さい!見学でき大変勉強になりました。

西浦小六年 三 宅 佐 和

「佐和ちゃん、これ行かない?」 「佐和ちゃん、これ行かない?」 「佐和ちゃん、これ行かない?」 「佐和ちゃん、これ行かない?」 「佐和ちゃん、これ行かない?」

緑を大切にすればいいと思います。 これからは、私達一人一人が森林を、そしてが、大変よく分かりました。 が、大変よく分かりました。

(カットはやまぐち まおちゃんの作品)

ずれをふせいだり、年輪があったり、私たちのすずしく感じるのはなぜか? 森林には、山く

日本列島ユースアクションの試み



森林の中で、「緑」について共に考え、林業体 た、初めてといってよい企画にある。その意図 際森林年と国際青年年の趣旨をドッキングさせ 験をするという、行動計画として実現した。 全員が分担し、班別行動を徹底するとともに、 研修係、記録係、レクリェーション係等の役割を すべてに共同で行動したこと。各班毎に、班長、 通じて共同生活をし、十四人ずつ五班に別れて まず、全国各地から集まった若者が、四日間を 第二の特徴は、その具体的な行動内容である。 このグリーンキャンプ、8の特徴は、第一に国 全国の若者に呼びかけて、林業の現場で、

つぎに、夕食後や朝食前という時間帯での

講演会の司会等全体的な役割は各班で順次に担

るかのように、賑々しく開催された。 ンキャンプ 25」が、八月二十九日~九月一日の四日間、暑さ厳しく長かった今夏の最後を色ど 長野県王滝村で、国際森林年・国際青年年を記念した「日本列島ユースアクション=グリー

が運営に参加協力した。 局関係者を含めて約百名、 参加者は、全国各地から集まった二十歳前後の若き男女(七十名)が中心で、講師陣、 これに王滝村役場、王滝村青年会、王滝営林署等地元関係者数十名

その講演内容を題材にして開かれた班別討論も たことは、象徴的な印象を与えていた。 第三日目の夜に開かれた地元との交換会で、王 での、講師陣との体験学習であった。最後には、 林業体験であり、野外フォーラムという森の中 フィールドワークとしての下刈りや地拵え等の 特徴的であった。さらに、最も印象的な行動は 多彩な講師陣による種々の充実した講演であり、 語り、歌い、遊び、真にうちとけた交流ができ の全国から集まった若者が、手に手をとって、 滝村青年会を中心とした山村の若者と、参加者

森林との出会い王滝村での林業

参加者の構成

果抜群の題材ではあるが、 被害の甚大さを改めて認識させられた。自然の の大地震の「悪魔の爪跡」を目のあたりに見て、 工事が精力的に進められている最中である。そ し、その大惨事から約一年を経過し、なお復旧 西部地震の震源地として、悲惨な大災害に遭遇 王滝村は、 区分 国土保全の必要性を痛感させられる効 % 項目名 昨年九月十四日に発生した長野県 11.4 高校生 8 18.6 大学生 13 青年団体 10 14.3 7 10.0 行政 それにしても王滝村 -6 8.6 林業家 20.0 森林関係 14 8 11.4 中国留学生 その他 4 5.7 合計 值 70

の王滝営林署(関厚 ○メートル以上、林野率九一パーセントの、 は莫大な犠牲を払ったものである。

年齢別 10-9 8 7 6 5 4 3 2 1 31 32 33 34 35 24 25 26 27 28 29 30 18 19 20 21 22 23 16 年齢

野県下三番目に広い)に、人口は一千三百三十 のうち、国有林が八七パーセントを占め、ここ 三人である。林野面積二万八千三百ヘクタール 村中の山村で、面積三万一千三百ヘクタール(長 王滝村は、木曽御嶽山の麓にあり、標高九〇 署長)は日本一の事業規 Ш

> る。 業地(森林資源地帯)において、 である。この典型的な山村と日本の代表的な林 模を誇っており、いわゆる木曽ヒノキのメッカ 「グリーンキャンプ,85」が開催されたわけであ 初めての試み

あった。野外フォーラムでは、二日目午後に御 王滝営林署の指導のもとに実施した。参加者の 中には経験者もいたが、大半が初体験のことで を流した。三日目の午前中は、 果的にはなかなかの出来栄えで、 鎌を使って、当初は悪戦苦闘も見られたが、結 午前中に、王滝村有林で下刈りを実施した。蜂 したのである。林業体験としては、 森林の息吹きを肌で味わい、林業体験に汗を流 で二五〇年生の木曽ヒノキの原生林を観察した。 原植生を見学し、三日目午後は、 嶽自然休養林で長野県西部地震の「爪跡」と高 キ造林地の地拵えと、カモシカ防護柵づくりを、 に刺されるのを用心しながら、 全国から集まった若者たちは、 柄の長い下刈り 国有林で、 瀬戸川国有林 気持ち良く汗 この王滝村で、 まず二日目

に求めるものは 若者が林業・森林

若者が、 求めて集まってきていることを紹介し、「過度な ら女性を含む若者が、同組合の作業班に就職を 村森林組合長=国民森林会議会員)は、 都市化と工業化による人間疎外の中で、 多彩な講師陣の中で、青山宏氏(静岡県龍山 山村の場に、 林業の労働に、その人間 都市の

	6:00	7:00	8:00	9:00 10	:00 11	:00 12	:00 13:	:00 14:	00 15:00	16:00	17:00	18:00	19:	00 20	:00 21	:00 2	22:00
8月29日 休							集合	受付	開会式/テーション	オリエン		夕食	等	ディス	カッショ	יי	
8月30日	朝食等		Ę.	フィールドワーク		ク	昼食	野外フォーラム			夕食		ディスカッション			/	
8月31日 出	朝食等		5	フィールドワーク			昼食	野外フォーラム			3	交歓会 (村民と共に)					
9月1日(日)		講演 朝食		フィールドワーク全体		全体包	会 / 引会式	解散/ 昼食	,								

今回が初めてであり、その印象を若者らしく率でいたが、その他大半の若者は林業への接触は家後継者、森林組合作業員・職員等)が二割ほぶたが、その他大半の若者は林業への接触はが中心で、高校生、大学生、社会人、中国人留が中心で、高校生、大学生、社会人、中国人留が中心で、高校生、大学生、社会人、中国人留が中心で、高校生、大学生、社会人、中国人留

・忠告もしていた。

また、野中茂樹氏(三重県海山町森林組合長)性回復を求めてきている」と講演された。

ーチを続けたい若者へのアプロ

う。 協議会(中青連) 緑」をテーマに、全国的な青少年活動対策の運 体と、同様の推進協力団体で構成されている。 年活動の指導に関する全国団体二十五の加盟団 スカウト、ガールスカウトの中央団体等、 本青年団体協議会をはじめ、YMCA、ボーイ 力団体であった。運営に当った中青連とは、日 年会で、さらに、 林野庁、 ン推進委員会で、事務局は中央青少年団体連絡 ても、参加者の若者たちから、「こういう林業や 動として、今年から行われることになったとい 会は、極端に少ないといえよう。今回の試みを の要望があった。「緑ブーム」とはいえ、 森林に接する機会をもっと増やしてほしい」と な形と方法で進めていきたいものである。 ちへの積極的なアプローチを、今後、いろいろ また、林業、山村サイドからの、都市の若者た の趣旨に沿って続けられることを期待したい。 土台に、この催しが、林業と山村の現場で、そ 若者が林業の現場や山村の実情に真に接する機 この「日本列島ユースアクション」は、「水と この催しの主催は、日本列島ユースアクショ 第一年目の「グリーンキャンプ,85」におい 長野県・同連合青年団、 長野営林局、王滝営林署が協 が担当した。後援は、 王滝村・同青

カモシカ防護柵づくりも体験した

ヤンプ '85 285

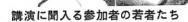


グリーンキャンプ

・全職・日本別島ユースアクション推進委員会 ■ 期日 1985年 8月



熱弁中の講師青山宏氏





山村を歩いて

奥の部落は大丈夫か?

がって高齢人口の割合も二一パーセントを上回 町村」の中でも「激疎」の部類にはいる。した る。二五年間に四二パーセントの人口減という っている。 六○年には八、八○○人に減った過疎山村であ 久しぶりに鳥取県日南町を訪ねた。 昭和三五年に一五、三〇〇人あった人口が 南町は伯備線沿いの、岡山県境にある山村 いま全国で一、二〇〇ほどある「過疎

通った大山持で、一番奥の部落に立派なお家敷 に移り住む人たちが少なくないからだ。 くとも、周辺の辺地部落を捨てて、町の中心部 をもった名望家であるが、買物の不便と子供の たことがある。その町長はこの辺一帯でも名の とかこれを引きとめる策はないものかと話され から人々がどんどん離れてゆくことを憂い、何 くなりはしないかということである。離村しな 村の中心部はよいが、周辺の部落が崩壊してな 昭和四五年とろ、この町の町長(故人)は町 「過疎」型の山村で一番心配なことは、 町や

らの崩壊」が、それから一五年後の今日に、「む 部落、谷間の奥の部落では人がみな出ていって、 うかがえるような気がする。したがって、周辺 考えてみればまことにおかしな話で、過疎の町 わが町、わが村の定住策をやっているのだから、 ような町や村によく出合う。そういう人たちが、 の他市に下りて、そこから役場に車で通勤する 隣町に住んだり、助役、総務・農林課長が平場 いか。昭和四○年~四五年ころに騒がれた「む 廃村となるところがどんどんでてくるのではな や村の行政担当者の心の中、本音というものが たのだが、このごろは村会議長がもっと便利な たがない。私は素直にこの町長と話す気になっ れぬほど、おおような「丹那」なのだからしか あるのだが、ご本人はこれにいっこうに気づか 止めはないものか」と人にたずねるのは矛盾で 場に通勤されていた。そういう人が「離村の歯 にそこに寝起きし、 にもう一軒家を建て、ご自身も家族といっしょ 教育のため、町から六、七〇キロ離れた米子市 町の車で毎日米子市から役

> 安 達 生 恒

らの第二次崩壊」となってあらわれていはしな 辺の部落、谷間の部落を丹念に回ってみた。 はどうなる、治水は?と思って、日南町では周 いか。もしそうなったら、山はどうなる、田畑

飼われている。少数とはいえ、三○代、四○代 され、雨よけハウスでトマトがつくられ、牛も でいるものの、山は守られ、田畑はきちんと耕 らず、農家数は一〇年前にくらべてほとんど減 て高齢者の割合もぐんと多い。それにもかかわ この春から彼は広い家に独りで住み、田を三へ 今そのおじいさんは町内の病院に入院中なので、 建作業に出て、一家の収入をきちんと確保し、 の青壮年がそこに居ついて農林業のかたわら土 クタール(借り増し分も含めて)つくり、稲作 家屋も建て替え、こぎれいに生活しているのだ。 ってはおらず、労働力の高齢化、女性化は進ん て他所に出たので、おじいさんと二人暮しだが、 人口減少率が町平均よりも数段高く、したがっ 町の統計によると奥の部落ではみは一様に、 三一歳の独身青年がいた。父親が事情があっ

)

んでいる。 作業の暇をみて五ヘクタールの山の手入れに励

と明るい顔であった。私は嫁を貰ってここで頑張るよ」「おじいさんはそのうちになくなるだろうが、

. .

り、加えてトマトという現金収入があるからな 円の雑収入があること。そして第三はたいてい は減らぬのだ。 とができる。だから、 縫製工場に通えば中年婦人も現金収入をえるこ そこには杉やひのきがびっちり植え込まれてい の農家が山林を四~五へクタール所有していて、 れていて、平年作で一〇アール当り四、五〇万 第二には減反田に雨よけトマトの栽培が行なわ 田が細長く広がっていて、どの農家も七〇アー さかもみられないのは、次のようなわけがある。 日稼ぎに出れば日銭がはいる。あるいは町内の やらぬ人も少なくはないが、そういう人は土建 る。要するに山村生活の基盤となる山と田があ ルないし一ヘクタールの田をもっていること。 のだ。もちろん、山や田の少ない人、トマトを 南町周辺部落に「第二次崩壊」の徴がいさ 谷間のむらではあるが、比較的平坦な 人口は少なくなっても家

ているひか。 は、どうして平均四~五へクタールの山をもっ容易に家を動かそうとはしない。日南町の農家山が四~五へクタール(部落平均で)もあれば、は何とかそこに住みつづけようとする。とくに田と山がある程度あれば、中年以上の人たち

> の運用にあづかるところが大きいと聞く。 の運用にあづかるところが大きいと聞く。 の運用にあづかるところが大きいと聞く。 の運用にあづかるところが大きいと聞く。 の運用にあづかるところが大きいと聞く。 の運用にあづかるところが大きいと聞く。 の運用にあづかるところが大きいと聞く。 の運用にあづかるところが大きいと聞く。 の運用にあづかるところが大きいと聞く。

農家は農地改革もあって、みな一へクタールとない一番大きな理由なのだ。

せずに踏みとどまっていた家も高齢化のため、る。これまでに家の数も非常に減ったし、離村調べてみると、周辺部落はいま危険な状態にあもっているからだろうと思う。新潟県高柳町をは人は減って家はあまり動かない。やはり山を秋田県阿仁町もこれと似た事情で、奥の部落

木山だという理由によるものだろう。木山だという理由によるものだろう。の仁町に山をもつ家が多く、高柳ではそきとられてゆく。おそらくもう五年もすれば、一軒もなくなる部落が二、三出そうな気配である。阿仁町も高柳町も豪雪山村である。一方がある。阿仁町に山をもつ家が多く、高柳ではそれが少ない上に、ほとんどが植林せぬままの雑れが少ない上に、ほとんどが植林せぬままの雑れが少ない上に、ほとんどが植林せぬままの雑れが少ない上に、ほとんどが植林せぬままの雑れ、老人だけの家は柏崎市に出た息子の家にひかが、老人だけの家は柏崎市に出た息子のだろう。

ちが住む山村の周辺部の「むら」のことを、そ ちはいうが、それを守る人々のこと、その人た る一○年後は、いったいどうなるのか。山を守 なかった。日南町でも阿仁町でもそうだった。 かし、山を持つ農家の中高年層はその手に乗ら 光ある撤収作戦」とエコノミストは称した。し 都市に出よ、工場に来れ」と説き、それを「栄 開始期、 を倒すな」が石黒農政の根幹だった。高度成長 計画をつくって報告せよ」と命じたという。「奥 て欲しいものだ。 の一〇年先のことを、国民森林会議はよく考え れ、緑を守れ、ふるさとをおこせと都市の人た 人を村に下放し、「一番奥の部落で生活できる 戦前、石黒忠篤は入省早々の若いエリート役 しかしながら、その人たちがもっと高齢化す 「奥は牛が住めても人は住めぬところ、

(社会農学研究所長・国民森林会議会員)



老いて山に生きる

―ある小山林所有者のうめき ―

津さん(82歳)から、レポート用紙八枚にびっしり書かれたお手紙をいただきました。 経営の苦しみ」を訴えるそのお手紙に、編集部の取材を加えてお伝えしましょう。 「私は日本一の零細植林保有者でどざいます」という書き出しで、東京・江東区に住む鈴木志

父のために買った山林

せん。人様に「下さい」とかいえる父ではなく、のにも人様の山の木をいただかなくてはなりまり川村(現松崎町)に住みつきました。中川村(現松崎町)に住みつきました。静岡県の伊豆地方で永年巡査をしていた父が



そうしに入りことになります。 盗伐」ということになります。 まして、人様のものに手をかければ「元巡査が

に三本を送る」と郵送してくれたこともあります。を買い求めました。昭和一五年のことでした。 父は大層喜んでくれました。「竹の子が生えたぞ、初物をワレ(私)に送ったぞ」と東京にたぞ、初物をワレ(私)に送ったぞ」と東京にたぞ、初物をりレ(私)に送ったが」と東京にたぞ、初物をりレ(私)に送ったがしました。

ん。私にも思い出があったためかも知れませたのはこんな思い出があったためかも知れませる。父に山を買い求め

け。 初茸(はつたけ)狩りに行ったことがございま 町に住んでおりました。先生に引卒されまして、 私が小学校の四年生の頃でした。当時は韮山

刺すように」と教えてくださいました。の生徒に渡し、「茸をとったら茸のくきを笹にがありました。先生は、細い笹を刈って一本づがありました。先生は、細い笹を刈って一本づいたり走り回っては茸を踏むから」と御注意

ざいました。 を学らず、先生は注意の警笛を吹きづめでごなどと騒ぎ、先生は注意の警笛を吹きづめでごぞ守らず、あっちの木に登って「何が見える」

ら、採って丁寧に笹へ刺して下さいました。先生」と叫ぶと、先生が来て採り方を教えなが最初に初茸を見つけたのは私でした。「先生、

お弁当の時先生は「この松林は君たちの先輩お弁当の時先生は「この松林は君たちの先輩と記憶の関係で茸の生えることを教えてくだいる」とお話になり松の樹齢と地質と季節・気いる」とお話になり松の樹齢と地質と季節・気温と湿度の関係で茸の生えることを教えてくださいました。

政府のすすめに従って

ていましたから、そのままにしておけば、平穏父のために買い求めた山で、父も喜んでくれ

こ。せんが、その父も二十二年に亡くなっていましてんな苦労もしなくてすんだと悔まれてなりまうことになりました。慎重な父が生きていれば、無難でしたのに、あまりにも大きな苦労を背負

しまったのでございます。 身のほども深く考えずにこの呼びかけに乗って身のほども深く考えずにこの呼びかけをしました。励し、助成金も下さると呼びかけをしました。は、対し、財成金も下さるとが賢明だ ―― と政府が植林を奨なった。薪や木炭は不用の時代に入った。植林なった。日本は文化の国に二十七年でございました。日本は文化の国に

いいようにされたのかも知れません。いいようにされたのかも知れません。生えているものを全部伐って、山焼きをするのです。あの山には当時百年ぐらいのケヤキるのです。あの山には当時百年ぐらいのケヤキまず、山全体の大掃除をしなければなりませまず、山全体の大掃除をしなければなりませまず、山全体の大掃除をしなければなりませ

植えました。

「一七年から二年がかりで五千本をたから」といわれて密植をしました。一町歩三だから」といわれて密植をしました。一町歩三がから」といわれて密植をしました。一町歩三がから」といわれて密植をしました。それから整地。

けでした。ま上の助成は、苗木が無償、、それだました。お上の助成は、苗木が無償、、それだ人様の手を借りましたので大きな借財を背負い東京に住んでいる私ですから、なにもかにも

植えたからには毎年下刈りをしなければなり

日当の支払いができるわけはありません。植林の借金の返済もままならぬ身に何千円ものぐらいは人様に下刈りをしていただきましたが、らいでしたが、二千円、三千円と急上昇。四年ません。初めの年は下刈りの日当も千五百円ぐ

五年目からは私が下刈りに東京からでかけるの下刈りでした。母が生きていましたもので、ととにしました。母が生きていましたもので、母の家に十日ほど泊り下刈りをするようなこととにしました。母が生きていましたもので、

いことが待っていました。 夏のつらい下刈りより冬になってもっとつら

ルタールを塗るのです。やシカが幼木を食べないように、一本一本コーやシカが幼木を食べないように、一本一本コーの幼木を食べるのです。シカも出てまいりましの幼木を食べるのです。シカも出てまいりました。ウサギがヒノキ

ました。 におだてられた自分の愚を嘆いたこともござい怠傾斜で滑って全身コールタールを浴び、政府急傾斜で滑って全身コールタールを浴び、政府ールタールの入った缶を背負って塗っていると、

した。

きましたが、経験してみてその理由がわかりま

営林署ではヒノキを一本も植えていないと聞

あわれ伐られた木よ

なった。放置しておくと害虫等の被害も出て不戦後に植えた木は手入れの最も大切な時期に

いました。 良材になるので間伐を ―― というお達しがござ

んで間伐を頼みました。に松を植えている大昭和製紙の山林部の方を拝くれる人が探してもいません。止むなく、近く好景気になって、かつこの悪い山仕事をして

ら、採算の合わない投資でございます。ち、採算の合わない投資でございます。また出資です。この出資したもかつてはあったようですが、いまは神話のよもかつではあったようですが、いまは神話のよりではあったようですが、いまは神話のよ

おかれています。 場所ですが間伐された木はそのまま山に放って 私の山は県道から百歩ぐらいで搬出に便利な

いました。 に入り、「感無量とはこのこと」としみじみ思 はえた木の半分以上が伐られ、すけすけの林

ました。
田れている木も立っている木も二十七、八歳。
のだとに成長してくれました。倒れた木のどこが悪くて伐られたのか、その見分けは正しかったろうか。立っている木も立派だけれど、倒された木もみな立派で痛いたしく、幾筋も涙が出れた木も立っている木も二十七、八歳。

未来に向って立っている木。倒れた木も死んで伐られた木、その倒れた木の分まで育とうと、「同僚よ、良材になってくれ」と自らを捧げてう。自分では一本も伐れないことを悟りました。ら間伐する人は「お前が伐れよ」というでしょら間伐するだ。 乱伐だ」と無性に腹が立ちまし「伐りすぎだ。乱伐だ」と無性に腹が立ちまし

なってくれ」と祈りました。 合って生きている。「何百年も、何千年も生き はいない。生きている魂と生命が深く根に通い ってくれ。その時代の建築文化に役立つ良材に てくれ。そして銘木になってくれ。御神木にな

政治は植林家 に温い手を

と聞いてびっくりしました。 三分の二は輸入しているそうでございます。そ 本は木材の大量消費国で、消費する木材の 政府が買い上げる生産米と同じ

南も北もそんなに伐ってよいものでしょうか。 ますか」とたずねましたら「南洋に無くなれば、 外国は日本のように苦労しなくても自然に木が 北洋にありますよ」と切り返えされましたが、 知りとうございます。 生えて短期間に生育するのでしようか。それを 外材業者に「南洋にはまだ無限に大木があり

現れました。私の持山が零細で、納税者が老齢 ということで地祖が免除になりました。瞬時で 負った私ですが、四十七年に理解ある政治家が ありますが、行政の温みを感じました。 国のいうままに植林と手入れをして借金を背

果たしてくれます。雨水を濾過(ろか)してき ます。山林家が手入れの意欲を失ったら森林は れいな水にしてくれます。酸素も供給してくれ

山に木があればこそ治山治水の大きな役割を

私は持ち山が小さく、老齢福祉年金がありま

営者はお気の毒に思います。政府の誘いに応じ すから税金もなんとか納められますが、森林経

いする次第です。 て植林した私たちに増税をなさらないようお願

取材後記

"恩がえし"に甘えていいか 都市との連帯つくる政策を

林に金をかけ、これからも手入れなど借金がか だまされたならその時だけ。しかし、私のよう さむだけ」と背すじを伸ばして語る鈴木さん。 に山にかかわった者は、ある木まで伐って、植 に伐らねばならないことはおかしい」とも。 った時に納めるようにしてほしい。相続のため 「政府におだてられてバカを見た。豊田商事に 「政府にいわれて植林したんだから、税金も伐

でした」という鈴木さんのお住いの近所のいま をつくっていました。「ここら一帯みんなそう れていました」と語る鈴木さん。 ぶ町なみで、かつて木材の町であった面影はあ は、堀も埋められ、自動車の整備工場や商店が並 御主人は製材工場に勤めるかたわら、菓子箱

場でして、うちの前から川で木材もよくつなが

鈴木さんのお住いは江東区。「ここは昔は木

ならぬ小山林家のなげきを鈴木さんはこういう にお返ししていると思うことにしました」。山 づくりのために金を投資しても、一銭も収入に 「木で生活させてもらいました。ですから神様

のです。

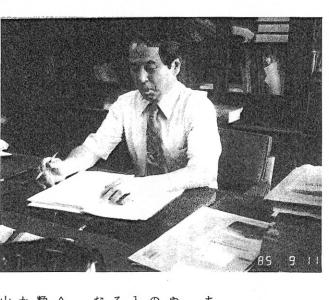
しようか」。 が、どれがサワラかもわからないのじゃないで れません。境にはサワラを植えているのです んですもの。そんなものじゃ下刈りはできませ でも草刈ガマを持って『これでいいか』という んよね。主人が山に行ったのはその時だけ」。 「息子は五○歳になりますが、山へは行ってく 「主人、一回だけ下刈りに行ってくれました。

所有者がまじめに森林づくりを考えた場合、 鈴木さんのような悩みを抱えているのです。 ら問題になっています。その反面、不在村山林 そのことでした。 さんのお手紙と取材を通して記者が感じたのは にどんな手だて(政策)を講じなければならな す。それなら都市に住み山林経営に心を砕く人 たぬ都市住民に山の木を持たそうというもので して「分収育林」が制度化されました。山を持 都市と山村の連帯が叫ばれ、その一つの方法と いかが考えられる時ではないでしょうか。鈴木 不在村山林所有者の存在が地域振興の側面か

朝日学術奨励金」研究を聞く

21世紀へのキーワードは / 入会 /

研究は筒井迪夫東大教授など八人が分担しての研究です。国民森林会議の会員も筒井教授 中に『森林文化の視覚から見た林業政策のあり方に関する研究』もはいっています。この と福岡克也立正大教授と二人が参加しています。 昭和六○年度の「朝日学術奨励金」は九件の研究に贈られることになりましたが、その



研究室の筒井東大教授

は「山の資源は自分たちのものだから、平等に、

入会は千年の民族の知恵筒井 教授に聞く

ある」といいます。(いりあい)。を現代によみがえらせることで(いりあい)。を現代によみがえらせることで

人会は、森林を共同で利用するやり方。下草 へ道具の規制〉で収穫に使う用具の大きさや種 なくならないように利用しました。 だから なくならないように利用しました。 だから なくならないように利用しました」。 へ山の口開け〉で入山日を決め乱獲を戒め、 へ山の口開け〉で入山日を決め乱獲を戒め、 へ道具の規制〉で収穫に使う用具の大きさや種 類を定め、へ収穫の量〉も「背負えるだけ」と か「人数」で制限するなどして、資源を守り、 か「人数」で制限するなどして、資源を守り、

の考えが貫かれていました。永続的にとっていこう」という共同財産として

この「山と人と木が一つに融合した、公私共の、住民の利用を切り捨ててきたのでした。 は、明治になっての官民有区分。官林主義がのは、明治になっての官民有区分。官林主義がのは、明治になっての官民有区分。官林主義がのは、明治になっての官民有区分。 に、公私共では、明治になっての官民有区分。 に、公私共のは、明治になっての官民有区分。 に、公私共の私権が共存する関係)の入会は一〇〇年以の私権が共存する関係)の入会は一〇〇年以の私権が共行。

「こうした国有林等のいき方は己を得ないこで山の手入れもできない ― という状況が続きで山の手入れもできない ― という状況が続きで山の手入れもできない ― という状況が続きます。

森林文化の視角から見た林業政策の在りかたに関する研究

研究の目的

研究の内容

(筒井 迪夫東大教授担当) 第一章 森林文化の現代的意義に関する研究

今後の林業政策は、森林と人間の密接な結合今後の林業政策は、森林と人間を切り離して来たいままでの政策体系に代わり、両者を結びつける政策体系の確立とその論理の構築を内容としている。森林と人間との関係を古くからの入会団体である林野共同体の諸機能(林業思想の流れ、林業生産、森林保全の制度、慣行、等)の分析林業生産、森林保全の制度、慣行、等)の分析を通じて明らかにするとともに、何故に明治以を通じて明らかにするとともに、何故に明治以を通じて明らかにするとともに、何故に明治以を通じて明らかにするともに、何故に明治以を通じて明らかにするともに、何故に明治以る政策体系を樹立するための根拠と条件を考究る政策体系を樹立するための根拠と条件を考究る政策体系を樹立するための根拠と条件を考究る政策体系を樹立するための根拠と条件を考究る政策体系を樹立するための根拠と条件を考究

当) 当(竹中 譲元参院農水委調査室長担する研究(竹中 譲元参院農水委調査室長担) 第二章 森林法制、とくに開発と保全に関

ここでは開発と保全を両立させる「森林法制の理念と機能」を考察する。営林監督制度、保安林制度を二つの柱とする森林法が追いもとめた理念は何であり何故それが貫かれなかとめた理念は何であり何故それが貫かれなから、 林野所有制、とくに公共の福祉に第三章 林野所有制、とくに公共の福祉に第一章 林野所有の在りかたに関する研究(笠林監督制度、六郎三重大教授担当)

思様を考究する。 とこでは人類の生存に欠かすべからざる林野の所有の在りかたを考究し、かつての共同等により地域住民の公共の福祉に役立ってととにより地域住民の公共の福祉に役立ってととにより地域住民の物的、精神的拠り所であったことを解析し、この入会林野を利用することにより地域住民の物的、精神的拠り所であったことを解析し、この入会林野を利用することにより地域住民の物的、精神的拠り所であったことを解析し、この入会林野を利用することにより地域住民の物的、精神的拠り所であったことを解析し、この入会林野を利用することにより地域住民の物的、精神的拠り所であるべきにより、 近様を考究する。

教授担当) 教授担当) 教授担当)

ここでは森林資源の経済的、公益的機能を

そうした時に、「森林を大切に―という叫びをうした時に、「森林を大切に―という叫び、をれば、」。かつての入会の中に示されたこの林文化、」。かつての入会の中に示されたこの林文化、」。かつての入会の中に示されたこの林文化、」。かつての入会の中に示されたこの様文化、」。かつての入会の中に示されたこの様文化、」。かつての入会の中に現われる文化的諸思想を林政の中心にすえ、「都市と山村、地球規模の入会にも広げなければ」と筒井教授は語規模の入会にも広げなければ」と筒井教授は語ります。

に広げようというのです。 は広げようというのです。 に広げようというのです。 は対とを結びつける新しい試みもやられていまいが」それを体系化して、新しい連帯感づくり味の直送、森林浴、草刈十字軍 ― など都市と味の直送、森林浴、草刈十字軍 ― など都市といるがようというのです。

福岡教授に聞く

環境材としての評価しっかり

「森林というものを今までは木材資源の面か「森林というものを今までは木材資源の面からみて運営してきたが、森林のもつ環境的価値らみて運営してきたが、森林のもつ環境的価値を国民全体で管理できるように森林計画を見直し、地域の森林の管理を都市と山村の住民が共し、地域の森林の経営が必要。、公私共利、を東代的に考えれば森林は国民共有の財産、それ現代的に考えれば森林のもつ環境的価値にある。

視点をあてて「日本の林政は国有林、民有林バ共有の財産である森林づくりをしているか」に外国の紹介も「外国ではどういう制度で国民

て受益者などの負担等の理論的実証を行う。最適に管理する方法論を確立する。具体策とししての価値を測定し、地域社会と結合するため分析し、森林の公共的な資本、経済的な資本とて考究する。地域住民と森林の関係を多元的に総合する管理の在りかたとその実現政策につい総合する管理の在りかたとその実現政策につい

第五章 民有林の森林開発並びに資源造成政策の担い手としての森林組合の活動とその位置でけに関する研究(福島 康記東大助教授担当)な正に反映する私有林業の展開、公有林整理開設正に反映する私有林業の展開、公有林整理開致正に反映する私有林業の展開、公有林整理開致事業などが入会林野とどのように対していったか具体的な研究のなかで森林組合等共同組織のもつ意義を解析する。

またはな水準の浸剤に戻っ見つの55セる研究(野々村 豊東京農工大教授担当) 林業の担い手としての林業労働の組織化に関す 第六章 就業構造の激変のなかにおける地域

ここでは地域林業の展開と深く関わりあう地では近の所在を探る。特に高度経済成長期以降の就業構造の変貌の中における林業労働の供給構造の変化を変貌の中における林業労働の供給構造の変化を変貌の中における林業労働の供給構造の変化を変貌の中における林業労働の供給構造の変化を変貌の中における林業労働の供給構造の変化を変貌の中における林業労働の供給構造の変化を変貌の中における林業労働の供給構造の変化を変貌の中における林業労働の供給構造の表別を表別を表別と深く関わりあう地域労働力の所在を探る。

(松本 謙蔵東大助手担当) 第七章 国産材市場の組織化に関する研究

すべきことを明らかにする。

山方産地業者の組織化を促進する方向で検討的意義について考究する。今後の流通政策は、的意義について考究する。今後の流通政策は、討する。林材一体、生産と消費の直結の現実討する。林材一体、生産と消費の直結の現実対する。本材一体、生産と消費の直結の現実

教授担当)
教授担当)
教授担当)

していたかを分析する。(福岡 教授担当)能をどのように具体的政策の中で活かそうと林資源をどのようにとらえ、森林の文化的機程を取りあげ、イギリス国家森林委員会が森程を取りあげ、イギリス国家森林委員会が森

ます」と日本との相違を指摘します。ギリスは官民一体の森林づくりに取り組んでいラバラですが、フランスはエコロジー重視、イ

しかし、森林資源を市場財として見るだけでなく環境財として見ることが大切で、急峻な山地、く環境財として見ることが大切で、急峻な山地、人口の密集した先進工業国の日本では森林のもから、を緑の財政資金としたいぐらいです」。 がいたも支えることが大切です。 がのにも支えることが大切です。 がのいです」。 がのにも支えることが大切です。 がのから、を緑の財政資金としたいぐらいです」。 でいる国有林問題も、赤字の根源で開題になっている国有林問題も、赤字の根源を解明し、国民の山にふさわしいあり方を追求を解明し、国民の山にふさわしいあり方を追求を解明し、国民の山にふさわしいあり方を追求を解明し、国民の山にふさわしいあり方を追求を解明し、国民の山にふさわしいが、

授です。 求めるものにまとめたい」と抱負を語る福岡教共同研究。二一世紀に向けて森林政策の転換を共同研究。二一世紀に向けて森林政策の転換を

三月には研究成果を出版の予定

研究は八分野を八人の研究者が分担(別掲)。 研究の成果は、来年三月には出版される予定でよ。「個別的にはそれぞれ何年も前からやったち。「個別的にはそれぞれ何年も前からやったち。「個別的にはそれぞれ何年も前からやったち。「個別的にはそれぞれ何年も前からやったち。「個別的にはそれぞれ何年も前からやったち。「個別的にはそれぞれ何年も前からやったち。「個別の成果は、来年三月には出版される予定で研究の成果は、来年三月には出版される予定で研究の成果は、来年三月には出版される予定で研究の成果は、来年三月には出版される予定で

地方新聞・この三ヵ月〉

4月

■紀伊民報社 OO用(で (16日) 緑の募金へ六六〇 十四日田辺市内

の協力で、 の少年団(羽山満団長、九十五人) 田良穂白浜町長)は田辺市みどり 化推進会西牟婁支部(支部長・片 チの緑を守り育てるために、県緑 実施し、 辺市内で「緑の羽根街頭募金」を 百三十一円が集まった。 に協力を呼びかけ合計六万六千八 します」―森林(やま)の緑やマ 一緑の羽根募金にご協力お願 少年団の団員たちが元気 十三、十四の両日、 田

立たせる。 育成や、緑化思想の普及啓発に役 県土の緑を守り育てるため、学校 植栽したり森林を愛護する団体の 公園などの公共施設に緑化樹木を この羽根募金で集まったお金は

備北民報 営林署国際森林年の標柱立てる (9日) 森林の大切さ訴え

ことしは国際森林年。FAO(国

際森林年PRの標柱を立て、 は二日、新見市高尾の庁舎庭に国 に理解を呼びかけている。 して新見営林署(矢田光央署長) ろうと定めたもので、この一環と が地球の緑を守 市民

林年・新見営林署」それにシンボ 号線沿い)に立てたもの。 日、同署の主任ら十二人が協力し ルマークなどを描いている。この の未来、緑の地球」や「85国際森 材。白地に黒文字でスローガン「君 標柱は高さ三ば、幅十六秒の角 庁舎南側の庭(旧国道180

収育林の公募(春秋二回) の森林教室などを計画しており、 て「国際森林年の森」植樹祭、分 きたい」と話している。 圖中国新聞 「森林の大切さを広くPRしてい 同署ではことし、 戸河内(11日) 杉板はがき 記念事業とし 小学生 いかが

ど売り出した。七十円切手を張る 材を利用して杉板はがきをこのほ 一友譲さん(四三) 山県郡戸河内町上本郷、 が、 杉の間伐 木工業

たうえ、 生の杉の間伐材を板にし、 山林から切り出した二十―三十年 五だ、幅十た、厚さ七ず。 持ち込んだ。杉板はがきは長さ十 導員(三一)が、二友さんに話を 町筒賀村商工会の矢立孝彦経営指 との便りを載せて配達してくれる。 と全国どこへでも杉の香をふるさ 面をとり、ペーパーでつや出しし んなで粗削り。手かんなで仕上げ、 数年前から頭をひねっていた戸河 同町は山林が九二%を占める山 杉の間伐材の有効利用をと はがきの縁に焼きを入れ 機械か 町内の

った "魔除(まよ)け"の 二友さんは、さらに縁に赤漆を塗 普通のはがきに劣らない。 書き味は水性ボールペンを使えば 漢」の焼き印を押して出来上がり。 裏に「深入山」「三段滝」「恐羅 村ひろしまなどで販売している。 入口の土産物店、深入山いこいの 一百円、二友さんのほか、三段峡 表に「三段峡くらふと飛脚便」、 値段は七十円切手を付けて一枚 「幸せ

の発表も予定。

5月

今年から国有林の伐採に「立ち木 がっていない五百三十本を選んで り入れた。植わっている木の皮の 巻き枯らし」と呼ばれる方法を取 先月、皮をはいだ。 が二十四珍以上で枝が少なく、曲 千三百五十本のスギのうち、直径 現山国有林 (三五m)の約五m。 広島営林署が今年から採用した。 くなる、という。県内では福山と る方法で、 と福山営林署(斉藤俊夫署長)は 部をはぎ、枯らした後で伐採す 採用 実施したのは神石郡油木町の権 木材を少しでも高く売ろうとし 福山営林署(9日) 色がよくて値段も高い 木の値段が一割程度高 「立ち木巻き枯らし」 八月ごろから

ため木材の色が良くなり高く売れ 伝って上る樹液の流れが止まり、 カ月間そのままにしておく。皮を わたって周りの皮をはぎ、 から五十だのところを幅四十だに る―などのメリットがある。木材 させる必要がない②しぶが抜ける して木材にする。 水分としぶが抜けたところで伐採 立ち木巻き枯らしは、 ①伐採後に乾燥 木の根 四一五

伐採を始める。

るため県内ではほとんど行われて しているが、皮をはぐ手間がかか いなかった。 産地の秋田県などでは昔から普及

用を全国の営林署に指示した。 力を入れ、立ち木巻き枯らしの採 から付加価値の高い木材の生産に な課題になっている林野庁は昨年 ■岐阜日日新聞 営林署(17日) 国鉄とともに赤字減らしが大き も厳かに伊勢神宮ご用材で付知 伐採リハーサル

路の神宮備林で切り出されるが、 郡加子母村、 ろぎ」で、内宮用は高さ三十一
が 採式リハーサルと祭場造りを行った。 神体を納める「御樋代木─みひし 六十一回目のど遷宮ど用材は、ど と 遷宮のど用材が六月五日、 **圓径七十六秒、外宮用は高さ三十 付知営林署では十六日、現地で伐** 裏木曽国有林から切り出される 二十年に一度行われる伊勢神宮 直径五十八珍の二本。 裏木曽国有林出の小 恵那 かず

ルを行った。 約三十人が、裏木曽の現地(一、 れも樹齢四百年余のヒノキ。 による方法で行われる。この日、 採する「三ツ尾切り」という方式 **斉藤一朗同署長はじめ営林作業員** 100点)で、 伐採はオノを使って三方から伐 伐採法のリハーサ 査では水道水にまで残留している びわ湖に流れ込み、市民の会の調

に到着する。 され、十日に宇治橋前及び外宮前 恵那交通のトラックに積み、 ド、八日付知営林署貯木場から北 奉祝祭がある。 恵那郡付知町、 者が出席して行う。ご神木は六日 十一時から伊勢神宮、 といわれる伐採式は六月五日午前 御杣始祭(みそまはじめさい) 七日同町をパレー 護山神社に到着、 林野庁関係 陸送

6月

布の即時中止を申し入れた。 どの市民団体が五日、 残留農薬を監視する市民の会」な 中散布シーズンを前に「びわ湖の **靈読売新聞滋賀版** 県に申し入れ (6日 めて、 マックイムシ防除などの農薬空 市民団体農薬残留心配、 空中散布をや 県に空中散

市町の延べ六万㎞で来月二十日か 町の二千二百ねで、水稲は三十九 マツクイムシが十七日から十六市 三十四年からの水稲防除。今年も から始まったマックイムシ防除と、 く空中散布は、県内では五十二年 ヘリコプターで空から薬剤をま

効が上がっていないうえ、 かし、マックイムシ防除は実 、農薬が などに代わり、 らはコンクリートやプラスチック の文化が形成された。最近、それ おもちゃなどに木材が使われ、木 わが国はむかしから、家や家具

る。

木離れが進んでい

ことがわかるなど健康被害の懸念 まっている。 や生態系の破壌を指摘する声が高

気汚染こそ問題。松枯れ対策は伐 会議に加盟する市民の会らが行っ 散布防止を決議したのを受けて同 倒駆除によるべきだ」として空中 するは根拠が薄く、工場などの大 枯れの原因をマツクイムシに限定 務局・全林野労組大阪地本)が「松 反対する「松枯告発連絡会議」(事 今回の申し入れは、 空中散布に

県内を走る。同県林業振興課と木 具や木材を積み込み、子供たちに い子、集まれ」―自動車に木工道 コンクールも実施する。 た楽しいアイデア。年一回の作品 材組合連合会の人たちが思いつい 室「トンカチ号」が七月から広島 を指導します―という移動木工教 つくえやいす、 | 中国新聞 広島県と木材組合連合会(19日) 「かなづちやのこぎりの使いた 『トンカチ号』来月発車 木工の楽しさ教えま おもちゃの作り方

> の新設。子供会や親子グループか うと計画されたのが、 手の器用さもとりもどしてもらお 木材加工の楽しさを知ってもらい、 ら希望があれば、 このため子供たちに木のよさ、 公民館や学校へ トンカチ号

ぎりなど木工道具を五十人分積み、 使用料は無料。 者が負担する。 トンカチ号にはかなづちやのこ 材料費は一部利用

月にはコンクールも行われる。 を少しずつ充実し、子供達に木材 ない。しかし移動木工教室の内容 理想的な発車ができないかもしれ したい」と話している。 の公民館などに展示され、来年 加工の楽しさを知ってもらう場に 務局長は「初めての試みなので、 子供たちが作った作品は、各地 同県木材組合連合会の原田功事

る 同じような木工教室が開かれてい 市町の同県木材利用センターでも、 も文化科学館や広島県佐伯部甘日 木のかおり。最近では広島市こど 大人たちにとっても心にしみる

森林の危機の克服に向け

林政審議会

その基礎はほぼ確立された。 当たる約一千万mの人工林が造成され、 な造林施策の結果、森林面積の四割に 我が国の森林資源は、戦後の積極的

森林の危機の克服と国産材時代の展望

頭に、国内の木材需要の主たる部分を な管理を行うことにより、二一世紀初 ある森林に対して間伐、保育等の適正 以下の若齢林であるので、育成途上に 未だ間伐、保育を必要とする三五年生 課題である。 現実のものとすることが現在の大きな 国産材で賄う「国産材時代」の到来を しかし、これらの人工林の大部分は

とも重要となっている。 需要に対応し得る森林に育てていくこ 高度に発揮するとともに、多様な木材 保全・水資源のかん養機能、さらには 移行する中で、森林に対して多様な国 かける機能等その有する公益的機能を 文化面・教育面等で人間の精神に働き 民的要請が高まっているので、国土の 精神的価値をより一層重視する社会へ また、我が国経済社会が生活の質や

をみると、新設住宅着工戸数の減少、 木材の需要の減退とこれに伴う価格の 木造率の低下や代替材の進出等による ところで、林業及び木材産業の現状

> 加しており、また、木材産業において はその生産活動が著しく停滞し、間伐 低迷、人件費等の経営コストの増加に にわたる深刻な不況にある。 保育が適正に行われていない森林が増 よる収益性の悪化から、林業において は、倒産件数が高い水準にあり、長期

きく左右する木材需要をみると、 開放要求が急速に高まっている。 諸国から合板等の関税引下げ等の市場 今後の林業及び木材産業の展開を大

設住宅着工戸数の大幅な増大が見込 の低下等から需要の大宗を占める新 住宅ストックの量的充足、婚姻数

ること。 伸びは見込まれないという見方もあ 構造等の変化により今までのような があると見込まれること。 との競合関係は引き続き厳しいもの 係及び木材と石こうボード等代替材 木造住宅と非木造住宅との競合関 パルプ用チップの需要は、紙需給

られている。 ばかりか、減少の可能性さえあるとみ などから、大幅な増大は期待できない

これに加え、最近、米国、アセアン される。 生活に重大な影響が生じることが懸念 ら森林の適正な間伐、保育が一層困難 きなくなるばかりでなく、その不振か 速され「国産材時代」の実現が期待で 能の発揮にも支障を及ぼすこと等国民 なることや国土保全等森林の公益的機 その結果、良質な木材の供給が困難と となり、林木が過密で、病虫害や風雪 となり、林業及び木材産業の不振は加 には外材の動向からみて著しい不均衡 材需給は、国産材の資源的状況、さら 害に弱い森林が増大することとなる。

材産業関係者が地域の実情に即して木 む事例がみられる。 材の需要拡大やコストの縮減に取り組 あって、全国各地において林業者や木 一方、このような厳しい状況の中に

これらの動きを積極的に支援し、森林 とする観点から、次のような施策を始 に対する国民の多様な要請に応えると み重ねられていくことが重要であり、 創意に満ちた取組みが今後とも広く積 していくためには、このような英知と 力に講じていく必要がある。 ともに、「国産材時代」を現実のもの 第一は、森林整備方針の転換を図る 森林・林業を巡る厳しい状況を克服

ことである。

来の森林・林業のあり方に一つの考えを示し 表した「森林の危機の克服に向けて」は、将 林政審議会が八月七日、中間報告として公

そこで全文を紹介してみました。

このまま推移するならば、将来、

要請が高まっている。 材需要の多様化等森林に対する国民的 林の有する公益的機能の高度発揮、木 我が国経済社会の成熟化に伴い、

林の適正な整備に加えて、 とのため、既に造成されている人工 複層林の造成、天然林施業の展開

- 及び広葉樹林のより積極的な造成 自然保護をより重視した森林施業
- 地条件に応じた多様な森林の整備 森林の総合的利用の観点からの林
- 採年齢の多様化、長期化 山村の生活環境の整備等を重視し 木材供給力を平準化するための伐
- による森林の整備を推進する必要があ 等を踏まえて森林整備方針の転換を図 るとともに、国民の参加及び費用負担 た林道開設の推進

拡大と加工、流通を担う木材産業の体 産材を安定的に供給していくためには 需要者のニーズに対応した木材の需要 の体質改善を図ることである。 今後、林業生産活動を活発化し、国 第二は、木材需要の拡大と木材産業

質改善が不可決である。 このため、木材需要の拡大について

1 低コストの国産材の安定供給体制の 外材や代替材との競争に耐え得る

- 木材利用の普及、啓発
- 善については、 等を図るとともに、木材産業の体質改 住宅税制等の改善
- 2 1 システムの開発及び高性能機械の導 入等によるコストの縮減 大工・工務店等と連携した積極的 生産性や品質の向上のための生産

を図っていくことが重要であると考え 木材貿易を巡る国際情勢等に配慮しつ つ、需要動向に見合った安定的な輸入 なお、林業及び木材産業への影響、 る必要がある。 なマーケティング活動の展開等を図

とである。 第三は、 林業経営の活性化を図るこ

が重要である。 めには、林業経営の活性化を図ること を行い、健全な森林を造成していくた 森林に対し間伐、保育等適正な管理

とのため、

生産コストの縮減 林道の開設や機械化等による林業

とが相互に連携を図り、地域一体と なって国産材の安定供給を図る体制 木材の生産部門と加工、流通部門

4 3 林業就業者の確保 相続税等林業税制の抜本的な改善

(5)

技術開発の推進

利用の促進を図ることである。 等を図る必要がある。 山村は、林業及び木材産業の存立基 最後に、山村の振興と森林の総合的

その振興を図るべきである。 会の活性化を促進するとともに、流域 生活環境の整備等を従来以上に積極的 役割を果たすことを求められている。 かつ快適な国土の形成上一段と重要な ある余暇空間や居住の場の提供等安全 七割に及ぶ森林の適正な維持管理を诵 の下に、各種施策を総合的に実施し、 圏等をベースにした広域的な地域構想 じた国土の保全、ゆとりとうるおいの が成熟社会へと移行する中で、国土の 盤であるのみならず、我が国経済社会 に進め、山村住民の定住と山村地域社 このため、所得、就業機会の確保、

1.

(1)

正に配置するとともに、利用目的に応 林業経営に取り組んでいくことが重要 請に応え、林業の活性化を図るために じた多様の森林を整備していく必要が であり、散策道、林間教育施設等を適 は、森林を総合的に利用する開かれた また、森林・林業に対する多様な要

り、このような観点から、これらを第 時代」を現実のものとしていくために もに、二一世紀に期待される「国産材 対する国民の多様な要請に応えるとと は、広く国民の理解を得ながら、林業 く政策を展開していくことが重要であ 及び木材産業と山村の振興に力点を置 以上の施策を着実に展開し、森林に

> 等においてより重点的に位置付けると 四次全国総合開発計画、国土利用計画 森林を維持造成していくことを緊急に 厳しい現状を打開し、健全で活力ある ともに、林業及び木材産業を取り巻く

21世紀に向けた森林・林業及び木材産業の施策の方向

解決すべき国民的課題として厳しく受

森林整備方針の転換 我が国の木材需給構造が大幅に変 五五年に改定されたものであるが、 び木材需給の長期見通しは、昭和 にした現行の森林資源基本計画及 給の量の実績が、それらの見通し 化している中で、伐採量や木材需 方向と林産物の需給関係を明らか を約二割下回っている。 新たな森林整備目標の設定 長期的な森林資源整備の基本的

し直す必要がある。 ける森林の整備目標を新たに設定 に対応して森林資源基本計画にお 国民的要請が高まっており、これ に伴い、公益的機能の高度発揮、 木材需要の多様化等森林に対する また、我が国経済社会の成熟化

ア、複層林の造成、天然林施業の 需給の長期見通しを早急に改定す まえ、森林資源基本計画及び木材 このため、次のような観点を踏 展開及び広葉樹林の造成

ていくため、人工林については、 発揮と多様な木材需要に対応し 森林の有する公益的機能の高度 今後の経済社会の進展に伴い、

取り組んでいくことが何よりも重要で けとめ、その活性化に向けて積極的に

られる広葉樹林の根強い需要と 同一林分より大径材から小径材 皆伐新植による一斉林ばかりで 成も推進する必要がある。 まで適時生産し得る複層林の造 なく、森林の裸地化を回避し、 極的に育成すべきである。 りに対応するため、天然林を積 森林に対する多様な要請の高ま 自然環境の保全・形成等国民の プ用材、しいたけ原木等に用い また、内装材、家具材、パル このようなことから、天然林

②自然力を活用しつつ天然木に ①樹高、樹齢の異なる樹木によ 備に加え、 成されている人工林の適正な整 した造林施策を見直し、既に造 にするための拡大造林を主体と り構成される複層林の造成、 成天然林施業」の展開 保育、間伐等を実施する「育 対して稚幼樹の部分的植栽、

イ、自然保護をより重視した森林 強化すべきである。 こととし、これに対する施策を を地域の実情に応じて推進する ③植栽による広葉樹林の造成

施業の推進

に自然保護を内在している。 の有する公益的機能を広く国民 って木材生産を行い、この過程 水等の自然を活用することによ れた人間の英知の下に、太陽、 に提供するものであり、本来的 で自然環境の保全・形成等森林 しかしながら、昭和三〇年代 林業は、長い歴史の中で培わ

進する過程で、自然保護への配 るため、拡大造林を積極的に推 以降、増大する木材需要に応え が、特に近年、自然環境の保全 等がなされているところである 保護に配慮した森林施業の導入 事例も見られたところである。 いることから、 慮が必ずしも十分ではなかった ・形成に対する要請が高まって 昭和四〇年代後半以降、自然

①学術上、文化上価値の高い自 めに必要な森林の保護 然の保全、種の保存などのた

ウ、総合的利用に対応した森林の ②従来以上に自然保護に配慮し に努めるべきである。 た森林施業の展開

ことが、一層強く求められてい るなど総合的な利用を推進する 青少年の教育の場として利用す 森林を自然とのふれあいの場

このため、林道、作業道、キ

など多様な森林の整備を図るべ 自然の美しさを享受できる森林 ことのできる森林、四季折々の 栽、造林、下刈り等を体験する ることのできる森林、木材の伐 問わず、野鳥等の生態を観察す ず、例えば、人工林、天然林を もに、森林を木材生産のみなら がりの下に適切に配置するとと ャンプ場等の施設を地域的な広

エ、木材供給力の平準化のための 伐栽年齢の多様化、長期化

こととなるが、木材需要は、今 後、内装材、家具用材等の分野 は、国内の木材供給力が現在の は見込まれない。 の、現状のままでは大幅な増加 における質的多様化が進むもの 年間伐採量の約二倍に増大する 二一世紀初頭には、資源的に

を平準化するとともに、需要の のアンバランスを是正し、これ 成によって生じる国産材供給力 しく不均衡となっている林齢構 様化しつつ、長期化する必要が 推進のほか、特に伐採年齢を多 林施業や「育成天然林施業」の 多様化に応えるためには、複層 このような状況を踏まえ、著

(2)

オ、林道整備の推進

開や間伐、保育等森林の適正な し得る低コストの林業経営の展 林道は、外材や代替材に対抗

> たすものである。 などにも極めて大きな役割を果 産業の振興、さらには自然保護 か、地域住民の日常生活や地域 開設テンポを早める必要がある。 また、林道は、林業経営のほ

①効率的な林業経営の推進に必 要な林道

化的・教育的利用等森林の総 合的利用の促進を重視した林

森林整備のための国民の参加及 の整備を促進する必要がある。 推進するため、高密度の作業道 の造成等きめ細かな森林施業を 業機械の効率的な使用、複層林 しつつ推進する必要がある。 び費用負担 た林道開設を、自然環境に配慮 これらの林道整備と併せ、 林

促進すべきである。 る観点に立って、造林、間伐に対 森林の有する公益的機能を確保す つつあるので、水資源のかん養等 動を通じた森林整備が困難になり ら、これまでのような林業経営活 法人等公的機関による森林整備を ともに、森林開発公団、森林整備 する補助等を引き続き充実すると

このため、

②山村の生活環境の整備及び文

等それぞれの利用目的に対応し

現在の林業を巡る厳しい状況か

2.

のであり、これまで以上にその 維持管理を図る上で不可決のも

単なる緑とのふれあいだけでなく、 各地で生じている。 対する関心が一層高まっており、 よる森林の整備を推進する必要が ため、国民の参加及び費用負担に の振興に具体的に結び付けていく ともに、これを森林の整備や林業 るための方策を早急に確立すると 森林の整備に参加を求める動きも このような国民的な動きに応え このため、 また、近年、国民の各層に緑に

ナショナルトラストの活用の働 織等各種団体への分収林制度や ならず、民間企業や協同組合組 一般国民、地方公共団体のみ

利用の質を高めるに当たっての 協力費の拠出 森林レクリエーション等森林

下流域の負担によって森林を

を推進すべきである。 関する会員制度の整備、充実等 整備するための基金の設立 森林や各種林間施設の利用に

木材需要の拡大と木材産業の体質 に検討を行うべきである。 る水源税の創設について、早急 このほか、水を課税対象とす

(1)木材需要の拡大

ア、木材の安定供給体制の整備 には、需要者の必要とする時に 国産材の需要拡大を図るため

安定的に供給することが重要で 必要な規格のものを必要な量、

場等木材産業における合併、協 もに、製材業、合板製造業、市 の各部門の連携を強化するとと 安定供給体制を整備する必要が た再編整備を促進し、国産材の 業、大型化等地域の実情に応じ このため、生産、加工、流通

整いつつある中においては、大 を作り上げる必要がある。 た部材の使用等により、在来工 くの一般材が生産される条件が 法住宅の合理的な生産システム AS等によって品質が保証され 下に、住宅の施工の標準化やJ 図るため、木材産業との連携の トの縮減、施工体制の合理化を また、新しい木材産地から多 この場合、木造住宅建設コス

が一体となって地域材の供給、 を有する地域活動体の育成等に 引取りの安定化、需要開拓機能 係者、さらには大工・工務店等 が重要である。 木材需要を喚起、開拓すること 隣の地方中核都市を含む地域の 都市での市場開拓に併せて、近 このため、地域の木材産業関

①吸湿性に富み室内の湿度を適 取り組む必要がある。 木材利用の普及、啓発

> ④美しい木目と柔らかな肌ざわ 場の形成、ゆとりとうるおいの 得ることのできる居住や教育の わたるやすらぎや情緒的安定を 適で保健性が高く、心身両面に ③室内の音を柔らげること ②断熱性が高く、保温力が優れ ある日常生活の展開に欠くこと 等優れた特性を持っており、 ていること りを有すること 切に調節すること

り優れた耐久性を示すこと等建 や適切な手入れを行うことによ 強度が高く、加工しやすいこと している。 築資材としても良好な性能を有 また、木材は、重量のわりに

(2)

のできない素材である。

に取り組んでいくことが重要で ていくことにより、より積極的 を安定的かつ低コストで提供し 活かした優良な住宅、木製品等 ーズを踏まえつつ、木の良さを を深めるとともに、需要者のニ な木の良さに対する国民の理解 拡大を図るためには、このよう 代替材に対抗して木材の需要

の規制基準の見直しを行う必要 ついての加工技術の向上に対応 し、木材の使用に関する法令等 さらに、木材の耐火性能等に

このほか、大学等における木

術者の養成を図っていく必要が 実し、木造建築の設計、施工技 材や木造建築に関する教育を充

ウ、住宅税制等の改善

要である。 あり、その前提となる国産材の 動を活発化することが不可欠で 度発揮に対する要請が高まる中 需要を拡大することが極めて重 していくためには、林業生産活 で、これに応え得る森林を育成 森林の有する公益的機能の高

要に大きなウェイトを占める木 るための税制や金融面の改善を 造住宅の新築、増改築を促進す 図るべきである。 このような観点から、木材雲

立ち後れている。 機構等を有しており、その改善が ーズを反映しにくい多段階の流通 業は、過剰な生産設備や消費者ニ 製林業、合板製造業等の木材産 木材産業の体質改善

用した生産システムの開発及び コストの縮減 高性能機械の導入等による加工 ニクス技術やセンサー技術を活 生産性向上のためのメカトロ

把握等マーケティング活動が必ず おいては、消費者ニーズの的確な 材との競争を不利にしている。 しも充分でなく、このことが代替 また、木材、木製品の販売面に

の再編合理化 需給の変化に対応した木材産業 過剰な生産設備の処理等木材

流通コストの縮減 流、商流の効率的な管理による 情報処理技術等を活用した物

た積極的なマーケティング活動 る幅広い情報サービス等を通じ 携の強化、木材、木製品に関す い大工・工務店等他分野との連 出、地域社会との結びつきの強 住宅の設計や販売分野への進

3. 林業経営の活性化 ある。 近代化、合理化を促進する必要が

を図り、木材産業の設備、経営の

(1) 地域一体となった林業経営の活

わが国の林業経営の実態をみる

可能な林業主業型の経営体 林業によって自立することが

林業経営を行う複合型の経営体 畜産業や兼業所得に依存しつつ への依存度の低い経営体 資産保持的傾向が強く、林業 きのと等の特用林産、農業、

森林施業の集団化等の施策を展開 化を図ることが重要である。 し、林業経営の効率化、低コスト 応じて、積極的な林業投資の促進、 がみられ、それぞれの経営実態に このためには、まず、遅れてい

る林道、作業道の積極的な整備や

の面からも、 機械化を促進するとともに、

- 等による省力化した施業 疎植、自然力を活用した更新 密植、集約的な保育等による
- 等を推進する必要がある。 収入の増大を図る施業 を順次伐採することにより中間 高価格材生産を行う施業 利用できる太さに達した林木

携を図っていくことが必要である。 的に供給することのできる主産地 て、国産材をより低コストで安定 に、加工、流通部門との円滑な連 活性化、効率化に取り組むととも し、地域一体となって林業経営の 域の林業事業体を幅広く育成強化 はじめ、その他素材生産業者等地 活動の核となっている森林組合を を組織化し地域における林業生産 を整備していくことこそ、「国産 を形成し、国産材の安定供給体制 材時代」の実現へとつながる途で このような地域的取組みを通じ したがって、多くの森林所有者

このため、

範囲を超えた地域林業の展開に 森林組合について、市町村の

される林業就業者の育成、確保を

おける機能の充実 間協業の促進、加工、流通面に 対応するための広域合併や組合

- 供給等林業経営に関する地域協 な取決めに基づく地域材の安定 の促進及び林業関係者の自主的 林業の作業委託や経営委託等
- の役割の強化と市町村の財政基 報ネットワークシステムの整備 生産から加工、流通に至る情 林業振興に果たすべき市町村

また、昨今の林業を巡る厳しい

の林業金融制度の充実 林業経営の改善に資するため

体を除いて限界がある。

売を行うことのできる一部の経営 化を図ることには、自ら施業、販 みにより林業経営の活性化、効率 状況の中で、個々の林家の努力の

的に取り組む地域リーダーの巻 じた林業経営者の経営能力の向 上及び地域的な林業振興に積極 普及、指導等の充実強化を通

を図るとともに、

① 森林の維持管理の適正化を図

- る林地取得の促進 る観点からの市町村や企業によ 銀行等金融機関に対する森林
- が必要である。 に関して、早急に検討を行うこと の信託の促進

には、地域的なまとまりの下に林 化することと併せて、高齢化が進 業経営に取り組む体制を改善、強 行し、その質的低下と減少が懸念 林業就業者の確保 林業経営を活性化していくため

等を促進すべきである。 策の充実

に貢献していくべきである。 場産業の振興を推進する必要がある。 母体となる林業事業体の育成強化 発注等を通じて林野就業者の雇用 の実態に即した請負事業の計画的 るため、農林複合経営の展開や地 すとみられる兼業労働力を確保す 等から今後とも重要な役割を果た また、林業労働の季節的間断性 国有林野事業については、地域

税制の改善

的な林業経営の継続が困難となる い場合が生じ、これによって林業 森林の分割売払いをせざるを得な 要がある。 制面の)改善措置を更に進める必 規模分散化を招き、計画的、合理 経営基盤の脆弱化、林地保有の小 納税のために大量の森林の伐採や 特に、森林の相続については、

図ることが重要である。

- 修制度の充実 林業就業者を育成する資格・研 もに、多様な作業に就労できる
- を図るための就労範囲の広域化 厳しい労働環境を克服するた

4.

題である。

改善措置を講ずることが大きな課

このため、相続税制の抜本的な

山村振興と森林の総合的利用の促

めのきめ細かな労働災害防止対

機に対応して、実情にあった(税 林業及び木材産業の未會有の危

高度の技能を身につけるとと

じかねない。

多面的な機能の発揮にも支障を生 までは、森林の有する国土保全等 向に拍車をかけており、現在のま

林業就業者の就業機会の確保

(1)山村の振興

興を図ることが極めて重要であり、 速に活力を失いつつある山村の振 た経済社会を形成していくために するとともに、健全で均衡のとれ は、過疎化、高齢化の進行から急 この生産等地場産業の振興、先 林業及び木材産業の発展を促進 定的な所得、就業機会の確保 端産業等の工業導入を通じた安 産業との複合経営の育成、きの 林業の振興、林業と農業・畜

等生活環境の整備 山村と都市の交流を通じた都 道路、医療、教育、 文化施設

住民の定住と山村地域社会の活性 を積極的かつ効率的に進め、山村 化を促進する必要がある。 市活力の導入

レクリエーション、芸術・文化活 まりを背景に、小旅行、スポーツ、 関心、精神面の充足への欲求の高 ストレスの解消、健康の維持への また、都市住民のふるさと志向

近年の木材価格の低迷はこの傾

会の形成を目指していくことも重 流を促進し、活力ある山村地域社 を通じて、多くの人々の活発な交 条件をより積極的に整備すること は長期的に滞在する傾向がみられ ど様々な目的で、山村に短期的又 る。このような諸活動を行い得る 教育、著作、作曲等の創作活動な ウスでのやすらぎの享受、子弟の 人々が、自然の探勝、セカンドハ 動が活発化してきている。多様な

り広範な圏域を対象とする山村や が高まるものと判断される。 林業等の振興施策を講ずる必要性 象とした従来の施策に加えて、よ すると、市町村の範囲を主たる対 後の情報化社会への移行等を勘案 た山村と都市の交流の増大や、今 出身者の増加、緑資源を媒介とし 方中核都市等にJターンする山村 めとする山村経済圏の広域化、地 流域単位等の広域的な地域振興 近年の林業及び木材産業をはじ

域環境の保全を図る上で、山村地 強化や木材の地場消費の拡大、地 理の推進、国産材の安定供給体制 にとらえた施策を展開する必要が 域相互間や山村と下流域を一体的 の整備、林業及び木材産業の体質 特に、森林資源の適正な維持管

にした広域的な地域振興構想の下 圏とも密着した流域圏等をベース このため、地域の経済圏、生活

> 合的に実施していくことが重要で の産業振興、生活環境の整備を総 林業及び木材産業の施策やその他 の密接な連携を図りつつ、森林・ に、山村の住民と下流域の住民と

まえて、経営の改善を図りつつ、 に寄与するという重要な使命を踏 の諸活動を通じて地域経済の発展 振興すること。 活性化を促進し、地域の林業を 産地銘柄の形成や国産材市場の 国有林材の生産・販売により

合的利用の促進 興に貢献していくべきである。 等に積極的に取り組み、地域の振 文化的・教育的利用等森林の総 業の振興に資するため国有林野 の利用・活用を一層進めること 地域の特用林産や農業・畜産

極めて重要である。 林業経営に取り組んでいくことが 森林を総合的に利用する開かれた 合わせた森林の農林一体的利用等 利用、農業・畜産業と林業を組み 教育的利用、レクリエーション的 て利用するだけでなく、文化的・ は、森林を単に木材生産の場とし に応え林業の活性化を図るために 森林・林業に対する多様な要請

リエンテーリングコース、各種滞 在施設等を地域的広がりの下に適 設、自然歩道、保健休養施設、オ このため、散策道、林間教育施

> に応じた多様な森林を、地域の実 正に配置するとともに、利用目的 していく必要がある。

5. 技術開発の推進

(1) を積極的に推進する必要がある。 林施業、林木育種、林業機械、林 る技術の開発・改良及び試験研究 産物の需要開発等の各部門におけ 長期的かつ総合的視点の下に、 の経営の合理化を図るためには、 森林の整備、林業及び木材産業

6.

海外林業協力の推進

銀行方式等の方策を検討すべきで いくためには、リース制度、機械

林整備を推進するための施業技 業、省力化した施業等多様な森 復層林の造成、育成天然林施

この優良品種の創出等を図るた めのバイオテクノロジー 木材成分の多様な利用、きの

び試験研究の目標を新たに策定し、 材産業関係の技術の開発・改良及 をも取り入れた森林・林業及び木 自動化を進めること等を目的と 率化、労働安全衛生の確保、労 ンサー技術 機械等の自走化や小型軽量化、 働強度の軽減を図るための林業 したメカトロニクス技術及びセ 林業及び木材産業の経営の効

業が多いこと等から、林業機械を 技術開発体制の整備 林業機械市場が狭く小規模な企

これに取り組むことが重要である。

情、利用者の意向を踏まえて整備

新しい技術開発目標の策定

この場合、国有林野事業は、そ

このため、

っている。 に対する国際的な期待も著しく高ま は一段と増大しており、また、これ 我が国の海外林業協力推進上の責務 入している世界有数の先進国として、 有し、かつ、熱帯地域から木材を輸 する長い伝統や豊富な技術的蓄積を 規模で環境に影響を及ぼしつつある。 雨による森林被害の増大は、地球的 等先進地域における大気汚染・酸性 林資源の急速な減少や、ヨーロッパ とのような状況の中で、 林業に関 開発途上地域を中心とした熱帯森

力の充実を図る必要がある。 性を高めるため、今後とも、 協力する観点から、熱帯林に関する 作物の作付けの組合せ)の導入等に びアグロフォレストリー(林業と農 とともに、特に海外林業協力の実効 していくための体制整備を推進する 専門家を養成し長期にわたって確保 木材機関などの国際機関との協力、 研究、情報収集、FAOや国際熱帯 よる開発途上地域の開発に積極的に このため、熱帯林の維持、造成及

産・学・官が一体となった研究開 が民間企業と有機的な連携を図り 国·公立試験研究機関、教育機関 開発する民間活力が乏しいため、 発を推進する必要がある。

また、開発した機械を普及して

しい林業論示す

緑の文明の構図

京大学出版会¥1200)という本を出版され 会員の筒井迪夫さんが『緑と文明の構図』(東

代はまさに、その文明観の転換が急がれている」 破壊の文明から、自然を育て、創る文明へ、現 の論文で構成されています。その全編に「自然 れからの緑政策の方向」の四章に分け二十四編 る理論」「第二章緑をつくる政策」「第四章と (はじめに)という思いにかられた "森林文化" 本書は「第一章緑の役割」「第二章緑をつく

筒井迪

論が展開されています。

た「二焦点林政論」(67ページ)は興味深いで すが、本書の全編に「生産と保全の統一」とし で、再三のべられています。そのことを強調し ての林業のあり方(法制・技術)を追求する中 る理論」「5・森林文化の重視」に詳しいので 「森林文化」については、「第二章緑をつく

筆者は"林業の振興"の道を、新しい時代に

げることの必要性」(「緑の国づくりの合意形 日の林業を考える人を育てること」(55ページ) い地元…この二つの地元を大切にすること…明 成」23ページ)と強調しています。 「上下流一体となって緑を創る体制をつくり上

さわしい経営を要求しています。 ての実質を有してきている」(21ページ)にふ 産であるという性格から、国民の共有財産とし その面からも国有林に対しても「国の私有財

上からも貴重です。 して八○年代に発表されたものに筆を加え構成 したものですが「森林文化」論の足どりを見る 収録の二十四編は七七年から八四年まで、主と

あった入会(いりあい)に求め「近い地元と遠

北海道の自然への愛惜

北海道/自然と人

う本が発行されました。 海道/自然と人』(築地書館¥2400)とい 会員の八木健三さんを編著の一人とする『北

とがき)としてまとめています。 基調とした視点から見つめるエッセイ集」 の会員によって、すぐれた北海道の自然を描写 (84年)記念行事の一つとして企画されたもの この本は北海道自然保護協会の創立二十周年 自然と人間の織りなす模様を、自然保護を 「さまざまな分野に活動している本協会 (あ

木健三・辻井達

て生物」「人・そして風土」のテーマにそって にづっしりした手応えもある「北海道ガイド」 っても、それぞれの専門をふまえてるものだけ にもなっています。 十編の作品を執筆していますが、エッセイとい 八木健三さんを始め十人の方が「自然・そし

学者らしい筆で説き明かしてくれます。 て、一気に二億年前の北海道生誕の秘密を地質 いたち」を担当。空からの北海道の地勢を見せ 八木健三さんは、本書のトップ「北海道の生 火山や

> 見強そうな自然はそこからしだいに破壊されて がら、「(動物や植物などは)こうした自然のひと 保護観の原点を示します。 ゆく」(3ページ)と指摘し、八木さんの自然 保たれている。このバランスが崩されると、一 間の反応によってきずかれた微妙なバランスが てつくられてきたのだ。それらの間には、長い 数多いカンデラ湖、氷河の歴史と現状を描きな つひとつが、実にこの長い歴史の積み重ねによっ

けてきた朝日新聞の本多勝一記者も執筆してい 五九年に北海道に赴任して以来北海道を見つづ て、いっそう幅広い視点を本書に与えています。 札幌生れの芥川賞作家の加藤幸子さんや一九

会の動き

第18回幹事会 (9月14日)

中、杉本・北村は別会議)(大内・大野・半田外遊出席者(敬称略)(限谷・志村・田中・萩野

△報告事項>

- いて意見交換含め、今後の山村チームの討論のあり方につ合め、今後の山村チームの討論のあり方につとめの段階では解説もつけること検討」など作業グループのまとめた素案を検討、「ま・・山村チームの討議過程について
- 2. 国民の森林を考える北海道フェスティバル
- 3. 「教育森林」の提言に関する動向
- ① 六一年度予算要求に林野庁として「山村の一八一年度予算要求に林野庁として「山村

4.

会誌編集企画(M1) —— 省略

- ② 日光市と地元関係者・事務局で協議中の
- 4. 会計の中間報告

ることを確認。六二・一%の進捗。会費納入の督促をすすめ六二・一%の進捗。会費納入の督促をすすめ予算に対し八月末で収入七○・三%、支出

<協議事項>

- 1. 山村チームの今後の討議方向と日程
- ① 作業グループで幹事会の意見もふまえて

傾くのです。

- く現地調査をおてなう(10月中) 修文し、和歌山県で関西の会員の意見も聞
- 具体的展開の方法について検討② 素案の柱となる「森林委員会」の構想の
- 会にかけた上で会員討論に。 して提言案をまとめ12月14日の第19回幹事③ 以上の作業のうえ11月中に山村チームと
- ① 10月中に関係資料を配布、ヒヤリング実議方向と日程 . 森林チームの「国有林問題」についての討
- 事会にかけた上で会員討論に。 21月中に提言案をまとめ、12月14日の幹
- だけ内容は幹事会にはかるようにする。ので会長、事務局長相談のうえ対応。できるでいく。また、共賛を求められる場合もあるので会長、事務局長相談のうえ対応。できるので会長、事務局長相談のうえ対応。できるという

プロジェクトの論議

▽6月27日 山村チーム作業委員会で素案修文・田中・大久保・内山委員らで協議、大野座長外遊(イラン調査)中も作業をすすめることでその方向など意思統一。 マ8月12日 山村チーム作業委員会の協議(田中・大久保・内山委員) 中・大久保・内山委員)



後編 記集

∇…「降ってわいたような」災害に見舞われていたとでした。

「対するとでした。

「対するなった一般の人、そして二十かけのつかなくなった一般の人、そして二十わけのつかなくなった一般の人、そして二十わけのつかなくなった一般の人、そして二十つけのつかなくなった一般の人、そして二十つけのつかなくなった一般の人、そして二十年前には、救助隊も登るのが容易でなかったと下した。

「神業は遠くになりにけり、を実感と ――。・林業は遠くになりにけり、を実感に見舞われり、といいにいいた。

V…「きょうは、自衛隊・警察・地元消防団○○○人が捜索活動」とマスコミは伝えます。自衛隊や警官と違って、消防団は本業が別にあるのです。それを放っておいての出動です。それへの思いがあったのかどうか。都会で本業を捨ててあれだけの救援活動ができただろうか ― 。共同体意識が残っていたなればこそ ― の思いもしきりに。
V…「山村問題と林業の担い手」のプロジェクトの討論も、年末への提言案まとめに急ればこそ ― の思いもしきりに。
「山村問題と林業の担い手」のプロジェクトの討論も、年末への提言案まとめに急ればこそ ― の思いもしきりに。
「山村問題と林業の担い手」のプロジェクトの討論も、年末への提言案まとめに急ば、自衛隊・警察・地元消防団の一方が関係でする。

森林の未来を憂えて

—— 国民森林会議設立趣意書—

森林を伐りすぎたため、水資源の不安が強まっています。 日本の風景の象徴である松林が枯れつづけています。近年、台風や豪雪で各地の山林が大きな被害をうけました。また、

大規模に造林を進めたにもかかわらず、その手入れはなおざりにされています。 一九六○年代の高度経済成長のもとで、人びとは農山漁村から大量に都市へ流出しました。とくに林業の分野では、戦後

日本の森林は、いま病んでいます。このままではわが国の文化を育んできた森林・山村はさらに荒廃し、その未来はまこ

とに暗いといわねばなりません。

|、二一世紀初頭までには、地球上の森林の二割が失われるといわれています。人類にとって重要な機能をもつ森林に、私 このような現実を見すごしてよいのでしょうか。いま私たちは、次のような課題の解決を迫られていると思います。 たちはどのように活力を与え、守り育てていくべきでしょうか。

一、森林は、林業にかかわる人びとによってこれまで辛うじて支えられてきました。このままでは、その担い手を失う日が 近いのではないでしょうか。

一、いまみられる民有林や国有林の危機的状態は、どのようにして克服することができるでしょうか。一、山村に住み、林業で働いている人びとと、都市に住む人たちとはどのように手をにぎり合えるでしょうか。

一、いま、わが国は、木材需要の七割を外材に依存しています。森林資源の枯渇する中で、開発途上国の森林にどのように かかわるべきでしょうか。

子孫に残すために、日本の森林はどうあるべきか、いまこそ国民的合意を高める必要があります。 このような森林をめぐる諸問題の解決は、決して林業関係者だけにゆだねておくべきではありません。美しい国土と緑を

を望んでやまない次第です。 期したいと思います。このためには、広い視野と長期の展望に基づいた英知の広範な結集がぜひ必要です。 そこで「国民森林会議」を設立し、広く国民・政府に訴えることを決意するに至りました。多くの方々のご贊同とご加入 私たちは、以上のような国民的立場から、将来の森林や林業、山村のあり方を方向づけ、提言としてまとめ、その実現を

一九八二年一月九日

季刊国民と森林

1985年秋季号 第14号

- ■発 行 1985年10月1日
- ■発行責任者 隅谷三喜男
- ■発行所 国民森林会議 東京都港区赤坂1-9-13 TEL 03(583) 2 3 5 7 振替口座 東京2-70096
- ■定 価 1,000円 (〒共)